

# 王子地区教育環境整備協議会（会議の概要） ー平成15年度ー

## 第1回（仮称）王子地区ブロック協議会

■平成15年8月18日

■東十条区民センター

### ■次第■

1. あいさつ
2. （仮称）ブロック協議会設置要綱について
3. 座長選出
4. 幹事会の設置について
5. 意見交換

### ■発言要旨■

- 王子本町一丁目は十条中学校のエリアである。岸町一丁目は微妙でその線引きはむずかしい。閉校になったところは先生だけのものではなく、もっと地元でも使えると思うのでよろしくお願ひしたい。
- 王子五丁目団地の中の小学生はいろいろな帽子の子どもが通学していく。噂だけが先行して結果があつた。子ども・親にとつてもつらい。感情的にも早く言つてくれればいいのにといいことはある。はっきりするのは早いほうがよいと思う。卒業した親など感情の問題ある。第一に子どものことを考えるべきだ。
- 桜田小学校はよい学校だ。だが、こぢんまりしていて発展性がない。もっと早く手をうつべき。
- 新しい子どもたちが集まることが望ましい。学校統合は勝ち負けではない。
- ブロック協議会設置要綱の第2条の(2)学校の適正配置に関することと、(3)新しい学校づくりに関することは、あわせて進める話である。
- 本音で語り合ひ、王子地区にどういふ学校があるのか、新しい学校をどうすべきか、どこにするのか、夢を語りたい。
- 子どもにとつてどういふ状況がよいのか、どこがよいのか、そういふことを考えていくべき。どこかにくつつかかといふことではない。建設的な意見で進めるべきだ。
- 現状のままでは教育に対する危機感を持っている。環境は建物ではない。教育は人である。子ども同士のふれあひがあつて望ましい教育環境となる。来年度新入生は何人いるのか、入学児童がひと桁だと統合の対象である。少人数はよいところもあるが、外に出たとき弱いところがある。これからの学校は地域で考えるべき。
- 都立高は大幅に変わつてきている。理由は教育課程や指導の仕方の見直し、外部の意見を尊重しながらつてこ入れしている。さまざまなやり方で変わつてきている。小・中学校だ

って時代のニーズによっていろんなことに取り組むべき。改めて公立学校の役割として地域との関わり、教育財産を地域へ還元すべきと言われている。人数、規模だけではなく必要な学校、ハード、ソフト両面を合わせて理想の学校をつくるという話し合いをしたい。北区は基金をためてきている。建て替えの学校は次々出てくる。早くまとめてつくっていききたい。

## 王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第1回)

■平成15年9月16日

■桜田小学校

■次第■

1. あいさつ
2. 第1回協議会のまとめ
3. 望ましい学校像について
4. 次回日程

■発言要旨■

- 結論はなるべく早くした方がよい。子どものために教育環境として、どうしたら良いのか。学校の老朽化という話もあったが、学校の数をどう考えるか、一歩進んだ議論をしていきたい。
- 学校数とあわせて、場所の選定まで具体的に話を進めるべきである。
- PTAの意見を反映させるために、適正配置という点に絞ってのアンケートをとった。「王中へ越境しているから桜田中が激減した。地域の学校に通うことで地域の人とふれあい、社会性・公共性を身に付ける。正当な理由のない越境という根本の問題を省みない統合には反対」「統合をちらつかせて桜田小の児童が減った。行政への不信感がある。」「団地の子が集まらない以上、統合は止むを得ない。いつ統合するのか、負担は最小限にしてほしい。保護者への説明を要望したい。」「速やかな統合を求める。環境の変化を恐れていては前進できない。無駄な時間を費やすことがないようにしてほしい。」「
- 桜田中は、子どもたちも教職員も意欲的に活動しており、やる気がなくなる心配をしてほしい。保護者や地域の意見を吸い上げ、誤解を招かず、納得してもらいながら協議を進めるべき。
- 子どもも教職員も一生懸命なのは、どこの学校も同じだと思う。地域の声を吸い上げる、といっても町会の多くの家庭で高齢化が進んでおり、難しい。生徒数が少ないことの良さもあると思うが、学校という教育環境では、ある程度の人数が必要ではないか。
- 適正配置を考えずに、教育環境は語れない。誤解を招くつもりはなくても、適正配置のアンケートを行なったことで「もう統合なのか」という誤解を生んでいる。
- 学校がどうあるべきか、という話が少ない。

- 桜田小、中は確実に減少しており、親は過敏にならざるを得ない。アンケートをとっても賛否は必ずあり、かえって親の対立を生む。
  - 小学校は、厳しい状態にある。小学校の統合は早く進めてほしい。
  - 答申の学級数は、教育活動の面からも望ましいし、教育効果があるといえる。小中一緒に考えてほしい。
  - 風評が怖い。
  - アンケートやインタビューで、意見がまとめられるわけではない。それぞれの経験に基づく個人の見解になるのは止むを得ない。
  - 幹事会は代表の集まりである。個人的な意見は言えないという立場、組織や団体の意見をまとめてくるということなどできない、という立場。両論あるが、地域に十分理解してもらおうよう、配慮と意見を大事にしながら進めるべきである。
  - 地域に周知しながら、幹事会で出した方針を全体会にかけて決定していくという原則を守っていくことが大切だ。
  - この地域としては、中学校1、小学校2という数で良い、と考えている。
  - 話し合いの進展がなければ、親も子どもも不安がつのる一方だ。小中あわせて、早く考えていくべきである。
- この地域の望ましい学校数は、《中学校1校、小学校2校》とすることについて、一部の意見を除き、大多数が賛成した。

### **王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第2回)**

■平成15年10月16日

■東十条区民センター

■次第■

1. あいさつ
2. 第1回幹事会のまとめ
3. 望ましい学校の配置について
4. その他

■発言要旨■

- 前回の議事録の「大多数」という表現は改めてほしい。「反対の声が出なかった」が適切だ。
- 中学校も小学校も同時進行していった方がよい。中学3年生にとっては受験という問題がある。先延ばしはよくない。先生が目が届くということもあるが、子どもが少ない中で先を考えると中学校1校という数がでる。
- 前回、意見交換した。状況の変化がなければ、議論は先にすすめるべきである。

- 王子中校舎の耐震工事は先送りとなっているが、日常生活の中で心配しているのは大きな地震である。王子小も同じ状態であるが、王子小を直すときも王子中がどかないとできない。安全指導を考えるととてもこわい。次に話をすすめてほしい。
- (事務局発言)昭和30年代から50年代に建てられた建築物の耐震構造の強さは変化している。平成10年に全小中学校を耐震検査した。王子中は昭和32年の建築で地区で一番古い建物である。適正配置の課題があるため若干先送りとなっている状況である。
- 改築が先延ばしとなっているというがその頃から適正配置の計画があったのか。岩淵・赤羽中はどうか。
- (事務局発言)平成10年には小規模化が進んでいたため適正配置は大きな課題となっていたが、小学校から適正配置が進んだ。限られた財政規模を考えればこの当時から適正配置が大きな課題だった。
- 一度決まったことはよほどのことがなければ蒸し返さないと言うのが話し合いのルールである。教育環境は人である。37人の卒業生は21人が桜中に行っている。今の5年生が桜中に何人入るのか、考えるべきだろう。ある一定の数があってほしいと思う。部活も大事だが、授業が最も大事である。別のことで数がそろえば別であるが、単学級で選択教科の拡充、専任、講師の数、できることがわかって話を進めているのだろうか。自分の小学校の卒業生が教育環境の整ったところに入ってほしい。
- 授業が一番大切である。小規模校にいたことがあるのでよい点も知っているがある一定の規模が必要である。ひとつの方向性が出されたと思っている。選択の履修の幅については、教員の数ほしい。
- いくら小さくても大丈夫と考える人はいない。人数が少なくても効果があげられる。教員定数上、各教科一人確保できる。選択コースが減るが、TTや加配を入れれば困るというほどではない。メリット、デメリットを考えざるを得ない。両方の状況を考えてお互いを思いやっていくべき。
- 小学校の組み合わせが2パターンある。組み合わせについてはどうか。
- 東十条小と王子小の合併はむり。
- 桜小の廃校しかない。
- 校歴を東十条か王子のどちらかに移行することになる。
- (事務局発言)小学校だけをを進めるわけにはいかない。中学校の適正に連動する。中学校のあり方と小学校のあり方を考えてほしい。
- 中1校、小2校をどこにもっていくのか。中学校は桜田中にもってきて、小学校は王子小、東十条小にもってくる。名前は別の検討として、真ん中に中学校、端に小学校。
- 今でも保護者は自分たちで行く学校を決めている。王子5丁目の保護者がどういう風に受け止めるのかで決まるのではないか。
- 今の時点で自由選択制について見通しがあるのか。指定変更は今の段階で町番指定などの規則上の判断はどうか。
- (事務局発言)弾力的運用で保護者の学校を選ぶ権利を守っていく。学区の線引きについて子どもがどこにも所属しないということはないが、適正配置を行った学校に関してはその年度について学校を選んでもらっているという状況である。学校を統合することで学区がそのまま統合されるとは限らない。

- 王子中、桜田中が一緒になると、今までの保護者の流れを考えると王子小と桜田小の区域が重なる。中学校が統合だから小学校も一緒になると考えるがどうか。
- (事務局発言)その考えはひとつある。改めて学区域を見直すことになる。
- 自由な選択は今でもある。校歴は東十条小は変わらないまま、桜小の校歴を受け継ぐことで変化がある。条件を与えないと受け継ぐことで問題が出てくる。
- 統合の話し合いのルールは小学校にもあてはまるのか。
- (事務局発言)同じルールである。
- 統合イコール改築という話がある。5校は北区のど真ん中である。桜中と王中の位置の問題を十分検討して決めてもらいたい。
- 桜小、桜中が議題の中心となる。小、中の校舎を仕切って作ることはどうか。連携スペースを生かしながらやってもよいと思う。小、中の一体的な運営を考えるべき。
- 桜小はつらい選択をしなくてはならない。
- つらいことを前面にだすと話が進まない。前向きに次の展望を考えるべきだ。学校としての機能を失ってまで座視していて良いのか。王子小と一緒にになり、桜田小の校舎へ気持ちよく受け入れる。ある程度なじんだところで新しい学校へ行くということができないのではないか。
- 以前いた学校でも統合・同居、新校舎への移転を経験した。一緒に生活することで子どもたちも仲良くなりうまくいった。客観的にみたら王子小と東十条小が残る。王子小と王子中のところに新しい学校をつくるとなると東十条の子どもと新しい王子中との関係はどうなるのか。桜田中のところでできるとどうなるのか。
- 王子中の6割が区域外からきている。小学校も12校に及ぶ。王子小との連携もあるが大勢の子どもがきているので心配りをしていく。
- 桜田中の保護者への説明を教育委員会にお願いした。多くの方の参加をお願いする。10月20日午後7時からである。
- 組み合わせや校舎などのアイデアがでていますが、実現するという目で考えるのか。
- (事務局発言)今の段階で全く不可能とは考えていない。
- ハードも含めていろいろな提言を反映させられるような学校像を考えていきたい。一応、小2、中1という学校数の前提のなかで小学校のパターンだけでも決まれば次回に配置場所まで決めていきたい。
- 東十条小は改築の切迫性はないか。
- 王子小ほどの危険度はない。
- 大筋の意見の方向になっているというまとめでよいか。王子小と桜田小、東十条小という異論なければそこまで進めたいがどうか、よいか。
- 幹事会としては賛成する。
- 幹事会として小2、中1という学校数で桜小と王小が一緒になるということで賛同を得た。
- 20日の説明会について、事前に全体の学校に知らせることをしてほしかった。

## 王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第3回)

■平成15年11月26日

■北とぴあ802会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第2回幹事会の確認について
3. 望ましい学校の位置について
4. その他

■発言要旨■

- 第2回幹事会で、学校数と小学校の組み合わせについて確認された。次に学校の位置と学校像を含めた話に進めたい。4つのパターンの提案についてみなさんの意見を聞きたい。
- もうひとつのパターンが考えられるのではないか。王子小・王子中が小中一貫教育のモデルを進めている。小中をひとつの大きな建物にしたらどうか。王子地区には100人以上の人が集まるところは北とぴあしかない。この際、小中の大きな校舎の中に図書館や地域開放型の施設もあるという学校とならないか。
- (3)と(4)のパターンのほかに、小中のいずれかではなく、桜田小・中のところに中学校、王子小・中のところに小学校というのはどうか。運動場が広くとれ良好な教育環境となる。将来、桜田中も古くなった場合、桜田小に新しい学校を作ることができるという利便性もある。
- 桜田小に大きな学校の子どもが来てもらった方がスムーズな統合となる。
- (4)の場合、王子中の取り壊しが必要となる。南側が現在の王子小の校舎側となる。今の王子中の校舎は北側。王子中の校舎を壊して小学校をたてて南側を校庭として広く使う。王子小を壊したら、王子中も壊さないといけなくなるので(4)は難しいと思う。
- 位置の話をするにはいろいろな要素がある。動線や距離、通学時間の問題もある。改築改修の問題もある。教育内容についても視野に入れたい。小中連携教育をしてきて予想以上の効果が出てきている。教育の質の改善だけでなく、児童生徒が直接関わることで子どもに大きな変容があった。小中が隣接していて、移動時間がほとんどないことは大きなメリットとなっている。一緒に建て直すチャンスがあるならば大きなプラスのメリットと考えるべき。中学校の統合と併せて多角的に見ていく可能性があるなら期待がもてるといえる。
- 学校の規模はこのままでよいのか。広いスペースがあるのだから広さを有効に使うべき。王子中は区域外からきている子どもも結構いるのだから交通の問題はさほどではない。早く位置を決めることで入学者の偏りが少なくなる。早く決定することが必要である。

- 新しく出来る学校は今までと違った構想でつくった方がよい。図書館の併設など卒業してからいける学校が理想である。
- 桜田中は人数が少ないので王子中に吸収されるという感じがある。位置については、中学校は桜田の位置、小学校を王子小の位置、ということにどちらかといえば賛成である。王子中のあとに公民館などが良いと思う。
- 複合施設はよいが、セキュリティの問題がある。真ん中に中学校というのはバランス的によい。桜田中はまだ使える施設なので予算的にも安くすむ。
- 桜田中に新しい中学校となるとそのまま使えるのか、改築か。
- (事務局発言)そのままを使うということではない。耐震であれ、大規模改造であれ、何らかの手を入れることとなる。桜田中は真ん中という発言があったが二つの小学校の間ではあるがこのブロックの真ん中ではない。
- 改築という話がでてくれば相当の子どもたちの移動があると思う。23区中16区が学校選択制をとっている。北区もなっていくのだと思うが新しい校舎となればそこに集まると思う。
- 位置は(2)と(3)はない。建物が新しいものになると子どもが増えるというのは必ずしもそうではない。やはり教育内容であり、建物がいいに越したことはないがやはり子どもにとっての教育内容は人なのだと思う。2校分の敷地があれば広い運動場という話があったが、校長としてはうれしい話であるが、公立学校としてのバランスとしてはそれでよいのか。こどもの教育は大事なことであるがもっと有効活用すべきではないか。小中あわせた建物にするのか、別々のかたちとするのか2校分の敷地を使うのか区民全体で考えたとき公立学校としてそれでよいのか。
- 学校だけで使うというのではない。
- よい学校に通わせたいということとはよくわかる。いずれにしても統合と言うことを早く打ち出すことが大事である。2~3年先を見越せば結論はでる。中学校と絡んだ話となる。桜田小の卒業生は極端に減ってきている。何年延ばせば先が見えるのか。
- 位置はもっと検討すべき。中高連携はたくさんあるが小中はない。とくに隣り合わせで試みているところもあるが同じ複合施設の中で両方入っているというのではない。小学生はスパンが長い。体格的にも差がある。中学校は3年間。使う体育館や校庭もあまりにも違いがあるということで難しいと言うことがあるのかと思うが難しいがやってみようと言う考えがあってもよい。そうすると小学生用の校庭と中学生用の校庭をとるということになるちょっと難しいのかなと思う。
- 複合施設はたくさんあるし、王子小・中には学校関係者も多く視察に来ている。小中連携がこれからの教育のキーワードとなるからだ。
- 当初、小学生と中学生を一緒にすると不健全な人間関係が出来るというような考えをみなさんは持っていたようだが小中連携の教育効果はまったくその逆となり効果を上げている。
- そのような事例は私立にはたくさんある。時期は早いほうがよいと思う。来年度のことを考えると不可欠な問題だ。桜田小学校は具体的な数字をいうと名簿上でも、新1年対象児童は19名しかいない学校だが、入学してくる新1年生は3名くらいとなる予定である。王子小との組み合わせはよいが早く態度を決めてほしいと保護者からも言われている。今

の1年生も5名なので、このままでいくと平成17年度は2年生と3年生は複式学級となる。そのときまで待つのか。位置が決まらなると時期が決まらない。前向きに考えていってほしい。

- 東十条小の子どもも王子中に行く。王子小・王子中の連携は素晴らしい。ファミリー構想でそうした教育効果が東十条小も共有できるようにしていきたい。
- せっかく新しい校舎ができるのだから北区のモデル校となるようなものをつくるという提案である。地域の施設をと言ったのはつけたしだが高層の校舎になれば、広いグラウンドとなる。
- (事務局発言)潤沢な財源があるなかでやるわけではない。少ない財源で効果的な事業となるかということを考えざるを得ない。また、跡地を利活用してその費用を得ていくということも念頭に置いていかなければならない。
- 跡地をどうするかということを見ると桜田のところに高層ビルが建つことになる。王子のところには確か制度上建たないと思う。
- (事務局発言)前回の資料にあるように王子も桜田も第二種住居地域で建ぺい率は同じである。
- 話を単純化すべきである。複合施設は良い話だが小中学校の位置を考えるべき。施設を考えるのではなく、(1)と(4)で話をすべきだと思う。
- 複式学級となる学校は北区にはない。ひとけたといっても条件が違う。教員も2名削られる。教育条件も悪くなる。中間報告で一定のまとめ、16年度には一定の結論がでると思っている。
- 児童数が少なくなってきた、施設面の老朽化があるが事務局では日程の段取りなどがあるのか。
- (事務局発言)基本的に15年度には中間のまとめ、16年度には一定の結論をだすということである。しかし、桜田小の来年度状況の話があったが、ひとけたの学年が2年間続いたら座視できない状況となると答申でも言われている。教育委員会でも取り扱いを考えていかなければならない。
- 事務局から財政の話があった。補助金をかき集めて学校をつくっていくこととなるが諸条件あると思う。これまで様々な資料を出してもらったがどこまでが夢を描けるのか、どこまでがフリーハンドなのかを示してほしい。階数についてもどれくらいが建つのか、客観的なデータがほしい。位置については(1)か(4)となると思う。王子地区だけで考えて良いのか隣接地区についても考える資料をだしてほしい。次回話し合える資料があればよい。「学校施設のあり方検討会」の進行状況についても小中合築は話がでているのか。出ていないのにこの協議会で話を進めていってよいのか。などの資料をだしてほしい。
- はじめは16年度に結論を出せばよいと思っていたが桜田小の状況を聞くうちにこの地区は違うと思ってきた。だったらどのようにしたらよいのか。決して統合や時期のことにブレーキをかけているものではない。小学校の統合に中学校の統合をいつにするのかどのようにしたら望ましいのか歩み寄りながらいくことが大切である。東十条小のことも十分検討することが重要である。



- どういう状況で統合するのが望ましいのかじっくり話し合っていくべき。どうしても吸収合併と心配している保護者が多いので十分説明をしていかななくてはならない。新しい学校は新しい校名になるということによいのか。
- 協議会で話し合っただけよりも地域にでることによって総論賛成各論反対という意見が出てくると思う。原則としては校名、校歌をかえることとなると思う。
- 吸収という意見がでるのだったら個人的には王子中の名前にこだわらない。
- 王子中の校名を変えることに決まったかのように情報が区内に流れてしまうことを懸念している。
- 時期という大きな問題がある。校名はその次である。
- 校名を協議会で議題にするのか。この場で校名の話をするのかどうか。あくまでも教育環境について話を進めるべき。
- (事務局発言)校名・校歌の議論をこの協議会では想定していない。方向付けののち統合協議会で話し合う場が必要となる。
- 位置について(2)と(3)は消えたと認識いただいたと思っている。(4)はいろんな制約の中での議論がある。(4)は建築の問題などかなりつつこんだ話ができただ。時期についても決してゆっくりでないと認識いただいている。

#### ●新校位置のパターン●

(1)新校の小中学校とも、現在の王子小中学校の位置

(2)新校の小中学校とも、現在の桜田小中学校の位置

(3)新校の中学校は、現在の王子小または王子中の位置、新校の小学校は、現在の桜田小または桜田中の位置

(4)新校の中学校は、現在の桜田小または桜田中の位置、新校の小学校は、現在の王子小または王子中の位置

#### 王子地区教育環境整備協議会(第2回)

■平成15年12月18日

■北とぴあ第2研修室

■次第■

1. あいさつ
2. 幹事会の検討経過について
3. その他

■まとめ■

●これまでの幹事会での経過報告

1. 望ましい学校数は中学校1校、小学校2校
2. 小学校2校の組み合わせは、王子小学校と桜田小学校がひとつ、東十条小学校がひとつとなる。
3. 位置の検討に入った。いろいろなパターンが考えられるが、(2)と(3)は不都合であるという話なので(1)と(4)が俎上にのっているというところである。

●学校数と小学校の組み合わせについては、協議会の了解を得たということで次の話へ進みたい。3月までに中間のまとめを出したい。新しい学校の位置や学校像についていろいろなパターンがあるが、幹事会で審議して協議会で了解を得たいと思うが、意見をもらいたい。

- 新しい学校は桜田中学校を改修すれば、予算も少なくすむのではないかと。建物を有効活用できると思う。
- 桜田中学校の今の1年生は桜田中学校生徒として卒業させたい。
- (事務局発言)改築と統合を併せて考えざるを得ないが、話のまとまったところは先駆けてみていかななくてはならないと感じている。今後、統合の望ましい時期について話し合いが進んでいくが、桜田小学校が2年続けてひとけたのクラスとなると教育委員会としては座視できない。
- 学校教育は多様化している。子どもたちのために新しい施設を望む声がある。
- (事務局発言)今の中学1年生が統合ということ把握しないで入学したから、できればその1年生は桜田中学校生徒として卒業させたいという意見があったが、それは小学校でも同じことである。低学年は統合について把握していない。

●この全体会では学校の数は、中学校は1校、小学校は2校、小学校の組み合わせは、王子小学校と桜田小学校、東十条小学校となることを確認した。

#### **王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第4回)**

■平成16年2月10日

■北とぴあ701会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第2回全体会の確認について
3. 傍聴者からの意見
4. 望ましい学校の位置について
5. その他

■発言要旨■

- 新しい学校の位置について決めていかななくてはならない。1と4のパターンが俎上にのっている。位置についてA案とB案の資料がある。検討を願いたい。
- (事務局発言)学校建設事例の資料は、23区内の事例である。単独でこのくらいの費用がかかる。
- 桜田小と桜田中のところに新しい中学校、王子小と王子中のところに新しい小学校という案が無理だという理由を聞かせてほしい。十条中という広い敷地の事例がある。子どもにできるだけよい教育環境の学校をつくってほしい。
- (事務局発言)十条中の校庭は12,600平方メートルで突出している。例外中の例外である。平均の校庭敷地は、小学校は4,300平方メートル、中学校は6,100平方メートルである。小中学校を合わせた場合の校庭は約14,000~15,000平方メートルとなり、1校にこれだけの規模の敷地とすることは出来ない。
- 内部的な制約はどうか。
- (事務局発言)区全体で考えていかななくてはならない。十条中はおそらく軍用地の払い下げの関係で広い敷地となっていると思われる。敷地が広いに越したことはないが設計上の工夫等で見違えるような学校をつくることは可能と考えている。また、厳しい財政状況であるため、改築をした場合、土地の有効活用をしていくべきであり、他の利用や売却を考えていかななくてはならない。区全体として、合わせた敷地を使うということは難しいと考えている。
- どのような規模の学校ができるのか。
- (事務局発言)現在の校舎位置のままでは、桜田中は3階、王子中は3階建てが限度である。日影や道路など規制を考えると王子中は北側道路から11mセットバックすると4階、18mセットバックすると5階が建つと思われる。桜田中は北側から23mセットバックすると4階、27mセットバックすると5階が建つと思われる。
- (事務局発言)これまで、北側に校舎、南側に校庭というレイアウトが一般的であった。しかし、建築条件が厳しくなっているので、これからは必ずしも従来の位置関係で学校を建てるとは限らない。面積と容積率から考えると王子中も桜田中も問題はない。しかし、校庭の位置などのレイアウトは工夫が必要であると考えます。
- どんな学校ができるのか。30億円を区が出せるのか。新しい校舎ができるという前提で話し合っているがどうか。
- (事務局発言)他のブロックでもそのような話がある。協議会を始めるにあたっては、前提は改築としている。空いた土地を全て使うというのは難しい。土地を有効活用して財政負担を軽くしていかななくてはならない。
- 早く結論が出れば、優先順位があがって間違いなく改築をしてくれるのか。
- (事務局発言)必ずいつ建て替えますというのは今は言えない。16年度には改築計画の策定を予定している。その中にきちんと織り込んでもらうための努力をしていく。しかし、改築計画の中でも優先順位は検討せざるを得ない。学校の現状や建物の状況などを総合的に考えて、優先順位をつけていく必要がある。
- 小中一貫校や地域の図書館などを取り込んで考えてもらえないか。A案でも東十条小だけが離れて王子小・王子中のところだけ一貫校となる問題がある。

- (事務局発言)現在北区では小中一貫校を考えていない。より緊密な連携、よりスムーズな接続を考えている。地区図書館をという要望もどのような機能を盛り込むのか、緊密な連携をするにはどうしたらよいのかといったことも位置を検討するひとつの視点にしてほしい。
- 一貫校と連携校は全然違う。品川区では教育特区で認可をもらって、小中9年の小4年間を学級担任制、そのあと3年を教科担任制にし、あと2年を仕上げのときという区切り方でまずモデル校で実施しながら区内全校へということである。王子小・王子中の研究の中では、緊密な連携をとおしていろいろな面で順調であると思っているので、あえて一貫校としなくてもよいと思っている。ただ、位置的関係から王子小は王子中とすぐ行き来できているのでそのようなメリットをすてるのはもったいないと思っている。
- 王子中の建物は古い。建て替え期間の2年間、桜田中で勉強するのがベターである。
- どうような学校ができるのか、今の敷地で間に合うのか、日照の問題などをふまえ、アウトラインがでてくるとより具体的になる。果たして理想的なものができるのか。今の財政から考えると無理なような気がする。
- 王子中の改築は早めないといけないと思っている。学校は地域の財産である。夢のある学校建築として北区のモデルになるような学校になってほしい。
- 王子小も王子中も建て替え時期である。しかし、桜田地区に中学校となったら桜田中はまだ建て替え時期じゃないということだとどうなるのか。そのまま桜田中を使うのか。
- (事務局発言)桜田中は昭和50年築で中学校のなかで一番新しい。改築するのか、改修するのかを含めて検討することになる。
- そうなると王子地区だと改築となるのか。
- (事務局発言)王子中の校舎をそのまま使うことは不可能と考えている。
- 東十条から考えると位置については王子・桜田どちらでもこだわりはない。
- B案だと幼稚園もあり、今ある5校1園がバランス良く配置され、サブファミリーの連携がやりやすく、位置のバランスがよい。
- 桜田小の新1年生の数は今のところ4名である。2年生が4名。かなり厳しい。単なる一桁ではない。このままいけば平成17年度は複式学級となる。統合の時期はよく考えてほしい。位置は王子小のところが常識的な考えだと思う。50年、100年先は見越せない。それであれば、今いる子どもを第一に考えて、不審者への安全対策について、安心して通える学校としてほしい。
- 傍聴者から委員は皆個人の思いを述べているだけという感想が寄せられたが、委員の意見は個人として聞いていない。代表としての意見である。事務局でもそのような扱いとしてほしい。
- 中間のまとめまでに位置や時期が明確にならないとき6月議会に間に合わないと17年の統合は無理になるのか。
- (事務局発言)議会は6月ということはない。
- 桜田小の児童数の問題がある。統合の時期、早くて来年の4月に統合となると準備が忙しい。6、7月に統合協議会が立ち上がっても引越しの準備などある。半年で全てやらなくてはならない。

- (事務局発言)時期の如何にかかわらず、議会に関わりなく、協議会として進めて、議会対応として次年度就学通知がだせるかどうかということになる。
- 準備が忙しいという理由や早く決めたいということで結論を出すのはやめてほしい。
- 桜田小からすれば早く決定してほしいという意見もある。決して急ぐわけではないが保護者のことを考えると時期は考えるべき。
- 桜田小としては遅きに失したというのが多くの保護者の意見である。桜田小では教職員にも平成17年4月に統合するつもりで動きましようと言っている。
- 私も職員には早ければ、平成17年4月という話をしている。心の準備をしておくことを話している。
- 保護者や子どもにしても方向付けがわからないことは不安だと思う。話をその先に進めたい。
- 3月中に会合を開いて位置の問題について考えたい。いつまでも話し合っていることはできない。統合協議会についても当事者同士の方がよいのかなど前進しなくてはいけないと思う。結論がでない、何も決まらないというのはどうか。
- 統合について反対ではない。保護者や教員の意見を参考にしている。何も知らないで入学している生徒の存在は大きい。ずるずる引き延ばすことは考えていない。位置にしても学校像にしてももっと検討してよいと思う。何か急いでいる感じがする。妥当なのは18年度だと思っている。中学校の3年と小学校の6年のスパンが違う。
- 桜田小の児童数の問題があるが1学年が3～4名ではなく、10名だとしても、望ましい教育条件ではない。やはり2クラスあってクラス替えができるくらいの規模が必要ではないのか。もっと進んだ話を望んでいる。
- 協議会の報告について保護者へ説明をした。桜田小の状況を考えると17年4月の統合を視野に入れての意識を持っている。児童だって統合を意識している。実際に桜田小の新1年生、2年生の児童数が確定したら、統合委員会を立ち上げざるを得ないと思っている。

## 王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第5回)

■平成16年3月15日

■北とぴあ第2研修室A

■次第■

1. あいさつ
2. 第4回幹事会の確認について
3. 傍聴者からの意見
4. 望ましい学校の位置について
5. その他

## ■ 発言要旨 ■

- 桜田中の保護者の意見をまとめてきた。統合の時期は平成18年度以降としてほしい。大事なものは具体案であり、1年では統合は無理である。小学校とは条件が違うので、小と中では分けて考えてほしい。
- 中学校の位置について話を進めてよいのか。小学校はどうするのか。
- (事務局発言) 前回までで4つの案から2つにしばられたことで小学校の位置は東十条小と王子小の位置が案として残っていると認識している。
- 王子小では、改築という話が伝わっているため、位置について保護者の意見をもらっていない。うわさで伝わっていることが多く、伝える努力を考えていかないと意見をひろうことは難しい。
- 王子小では協議会の審議状況を保護者会で説明した。それでもあとから「知らなかった」「仮設校舎を建てて改築してほしい」などという意見もあったが全体の意見ではない。
- 子どもにとって教育環境はどうかを考えるべきである。
- 桜田小では(1)統合の相手は王子小、(2)平成17年4月の統合を考えて動きたい、(3)小学校の位置は東十条小と王子小の位置であることと改築中は桜田小を使うことの3点を話した。しかし、協議会では(1)だけは決まっているがあと2点はそうあってほしいということなので確定したことと希望は別問題であるとしている。
- 王子中では保護者会で説明があったが、新しい中学校は王子中の位置に建て替えるのではないかと多くの保護者は思っているようで、関心が薄いようだ。
- 桜田中の位置でないとだめだという意見はない。
- 中学校にとって初めての統合となるのでよい形で統合してほしい。
- 王子小と桜田小との統合は決まっているが、学校同士の話し合いはすでにあるのか。
- ファミリーでの活動について話し合っているが、統合は決定を受けているわけではないので話していない。
- 統合はひとつの学校だけでやるのではなく、必ず相手があることなのでお互いに歩み寄って新しい学校づくりを考えていかなければならない。
- 東十条地区でも、中学校の位置は王子、桜田のどちらでも距離が変わらないので不安感はない。
- 例えば王子小と桜田小の当事者同士で統合に向けた話し合いを進めていくことをこの協議会で容認できないだろうか。
- 時期の確定がないと容認されてもあまり進められない。
- 小学校だけの統合で平成17年4月を目指したいという中間のとりまとめとしてはどうか。
- (事務局発言) 小学校の統合は平成17年4月、中学校の統合は平成18年4月を目指すということはあり得るが、平成17年4月に小学校が統合したとき、中学校の位置が一定していないと、合築・単独など施設面での協議を進めることができない。
- 幹事会として王子中の位置が望ましいというのがおおかたの意見だ。流れがでている。
- 桜田にこだわる人がいないのであればその流れとなる。
- こたわる、こたわらないということで決めてしまうのはおかしい。バランスからいって桜田の位置がよい。

- 小中連携についてこの協議会でも話しているが、子どもの変容など非常に成果があった。
- 確かに小中連携の教育効果は素晴らしいが、東十条小と王子中は距離があるので気にかかっている。
- ファミリーで連携していくと中学校が間にある方がうまく連携がいくのではないか。
- ファミリーの連携は校長がどう考えていくのかということが大事である。距離の問題ではなく意識の問題だ。

#### ■15年度のまとめ■

- 以下を幹事会としての15年度のまとめとする。
1. この地区の望ましい学校数は小学校が2校、中学校が1校である。小学校の組み合わせは、王子小＋桜田小と東十条小である。
  2. 望ましい位置について小学校は東十条小と王子小の位置、中学校は王子中の位置が望ましいという意見が多かったが、学校ファミリーを考えると桜田中の位置がよいという意見もあった。
  3. 適正配置実施時期について、小学校は早期に統合を実施することが望ましい。最も適切な時期は平成17年4月である。中学校については時期の検討にまで至っていない。

## 王子地区教育環境整備協議会（会議の概要） ー平成16年度ー

### 王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第6回)

■平成16年5月7日(金)

■北とぴあ802会議室

#### ■次第■

1. あいさつ
2. 委員自己紹介
3. 第5回幹事会の確認について
4. 中学校の位置について
5. 学校適正配置へ向けて
6. 傍聴者からの意見
7. その他

#### ■発言要旨■

- 中学校の統合時期が平成17年、平成18年のどちらかに決まった場合、それからのプロセスが大事である。このまま統合が遅れれば老朽化した学校に子どもたちがいなければならない。
- 小学校の統合時期は来年が望ましいというが間に合うのか。
- 傍聴者の意見が掲載されているが、かなり事実と違う。これまで、10月28日には統合のためのPTA役員会を開催した。桜田小は王子小と統合し、改築の間、桜田小を使うこととなると思うということを説明したが、異議はなかった。そのあと、11月8日にPTA運営委員会を開催し、役員会の方向を出し、そのことに異議がなかった。12月15日には保護者全体会で統合について説明をした。保護者の意見をまとめながらきた。それにもかかわらず、明らかに事実と異なることが、文書として出されたことは極めて遺憾だ。
- (事務局発言)傍聴者からの意見は、従前から資料上に全文を紹介してきた。しかし、今の指摘のほか、あたかも統合の時期に当初予定があったかのような事実と反する表現もある。傍聴者からの意見は、どのようなものであってもすべて委員に伝えたいという考えは変わらないが、このように事実ではないこと、あるいは明らかに曲解されていることなどを、一般に流布しかねない文書にしたのは、事務局の不注意、不手際であり、大変申し訳ない。お詫びするとともに、今後は慎重に取り扱い、あらかじめ座長、副座長と相談させていただく。
- 昨年度、東十条小は学校ファミリーのモデル推進校としてやってきた。そのため、中学校の位置は桜田中の位置が適切という発言をした。しかし、学校ファミリー自体、特色や創



造といった点からいえば、それぞれのよさを生かした違った取り組みが求められていくのであって、今までの形にとられることはない。子どもの教育環境が第一であり、通う子どもにとって夢のある中学校であるべきと考えている。そうしたことから、今は、王子中の位置でよいと思っている。

- 桜田中の位置にはこだわっていない。
- 王子中と桜田中のどちらがよいかというのはむずかしい。王子中は建て替えなくてはいけい。桜田中は改装してそのままでも使える。そうすると王子中のところは何になるのか。そこまでの話はここでなくてもよいと思っているが、学校だけでなくコミュニティという視点で複合的に考えてほしい。
- 位置についてここで決めなくてはいけいのか。改築が前提であれば専門的な要素が位置を決めることになる。これまでの話でさまざまな改築に関する制約があるので、その制約をかけるほうで位置を示してほしい。
- (事務局発言)王子中の位置が望ましいと考えている。もし、王子中の位置となれば小学校の位置は決まっているので、王子中と王子小の位置に小中を建設すると合理的で計画メリットがある。
- この協議会が主体性を持たないと何のためにこれまで議論してきたのかわからなくなる。
- 王子小では17年度に統合するということは、教員、保護者ともに伝えてある。小学校として中学校が隣にあるのかわからないのかということで連携などの中身が変わるので中学校の問題を決めないと先に進まない。4月の保護者会で直近の統合がありえるということ話をした。さまざまな準備を進めていくことも伝えたが意見や質問はなかった。桜田小の状況を考えると平成17年4月にやらなくてはならないと大方の保護者が受け入れたと思う。中学校の位置も早く決めてほしい。
- 中学校の位置について王子中の位置とすることに反対の声が出なかったということで幹事会のまとめとしたい。
- (事務局発言)桜田小の現況を教育委員会で報告し、教育委員会としても早い時期に統合すると表明した。小学校の統合は平成17年4月をめざしたい。
- 小中が王子に建つとなると建物はどうなるのか。
- (事務局発言)小中学校を別々に工事するのは、合理的ではない。敷地を有効活用し、機能的な改築を考えることになる。技術的な側面からの検討やサポートを得た上でないと、絵はかけない。平成16年度に学校改築計画を立てることとなっており、具体的にいつから改築工事に入るのか、ということはもうしばらく時間がかかる。
- 北区の計画で50億円ほど学校改築のための積み立てがある。これから資産の運用で積み立てを増やしていかななくてはならないが、15年間で50校だと1500億円ほどかかると聞いた。そうすると早く協議会で結論を出したほうが優先順位も高くなるのかもしれないと感じたが、あくまで情報提供として聞いてほしい。時期がずれるのはかなりむずかしいと感じている。中学校が平成18年となったとき、王子小が空っぽのまま手につけられない状態で子どもたちだけが桜田小で勉強しているとなると当然小学校の保護者から意見が出る。

- 桜田中の保護者代表として中学校の統合時期は平成18年としてほしい。小学校の統合とは切り離して考えてほしい。中学校の統合が平成17年に引きずられるのは桜田中の保護者や子どもの思いが無視されているような気がする。
- 小学校が改築となったら王子中の校庭に重機が入ることになるので、子どもたちの安全が守れない。この地区に限っては小学校と中学校は別々に校舎改築できない。
- 新しいコンセプトなく具体的に新しい学校が作れるのか。中学校の統合のモデルになるかもしれないのに1年もないまま簡単に統合ができるのか。位置についてはこだわっていないが、ハード面で切り離せないとなってしまうのか。協議会の進め方に不信感がある。
- もっと時間をかけて新しい学校像について話をしていかなければいけない。
- 時期をずらすと2回、統合を経験する子どもたちがでてくる。中学校の適正配置の考えがあったが、小学校の現実問題もある。小学校が引きずられるというのは残念である。多感な時期にあえて2回も経験させるべきではない。避けられるものならさげたい。
- 同じ時期ではないといけいないのか。同時に改築が理想だと事務局もいっているが、どんな新しい学校ができるのか、プランをはっきりさせるべき。両校の生徒にとって、プロセスが見えてくるとわかりやすくなると思う。
- (事務局発言)平成17年度の統合が厳しいということだが、何がどう厳しいのか。それはクリアできるのか、できないのか、また総合的な判断としてはどうなのか、議論していただきたい。新しい学校のプランについては、技術の職員も入って話を進めることになる。
- 中学校の統合時期が平成17年度ということが建物に引きずられているとの意見があったが、学校適正規模等審議会答申が子どもの数を対象にしているという肝心なことがそこには抜けている。
- (事務局発言)小学校については、統合に向けての関係校間の委員会を早急に設置し、協議を進めていきたい。
- 学校像や時期については次回話し合いたい。
- 傍聴者にお願いしたい。議論の内容を正しく捉え、できることなら事実を確認のうえ、意見を出してもらいたい。

#### ■幹事会のまとめ■

中学校の位置は王子中の位置に決定した。

## 王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第7回)

■平成16年6月16日

■北とぴあ802会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第6回幹事会の確認について
3. 学校適正配置の実施時期について
4. 傍聴者からの意見
5. その他

■発言要旨■

- 学校適正配置について、各校で報告や説明をしているようだが、そこでの意見や状況を報告してほしい。
- (事務局発言) 王子小と桜田小の統合時期は平成17年4月をめざすことをふまえた報告会を行った。5月17日に王子小学校保護者に対し、王子小学校と桜田小学校を統合すること、平成17年4月実施をめざすことを文書で報告した。5月22日に桜田小学校PTA運営委員に対し説明をした。25日に王子小学校臨時保護者会で説明、31日に桜田小学校保護者に対して文書で通知した。6月9日には、桜田中学校PTA運営委員に対し説明、10日には王子中学校PTA運営委員に対し説明、11日に桜田小学校臨時保護者会で説明をした。おおむねどちらの学校でも説明会の際、配布した文書は5ページの「説明会Q&A」である。

まず、なぜ、王子小と桜田小が統合するのかということでは、桜田小学校の小規模化が進み、座視できない状況となっている。これは、単にひとつの学校の問題ではなく、地域の子どもたちに関わる地域の問題であると説明をした。

次に桜田小学校は、王子小学校への吸収統合なのかということには、学校統合は、学校の規模や歴史、児童数に関わらず、全て平等であり、対等統合とすることが原則であると説明をした。統合によって、新校舎は本当に建つのか、また工事期間の授業はどうなるのかということには、改築を前提にしており、工事中は桜田小、桜田中学校の校舎を使うと説明をした。

今までの統合でどのような問題があったのかということには、最も心配したのは子どもたちのことで、スクールカウンセラーの配置などを行ったが、まったくの杞憂だった。子どもたちはすぐに新たな環境や友達になじみ、むしろ保護者、PTA活動のほうがしばらくは調整が必要となったようだと言明をした。

統合までの期間が短いのではないかとということには、両校の保護者による統合準備委

員会を設け、具体的な事項について話し合いを行う。学校間でも教育内容のすりあわせや連絡調整を十分行うなどのことが必要であるが、準備期間が短い中でも努力してほしいと説明をした。

統合は決定なのかということには、区立学校なので最終的に決定するのは区議会であるが、教育委員会としては、早い時期の統合を実施すべきであると考えているということを中心に説明をした。

- PTA会長もいるので、こんな意見もあったという意見を聞きたい。
- 王子小では、通学距離が長くなる、学童保育が桜田小学校から違う方向に行かなくてはいけない、北本通りを渡らなくてはならない。交通指導員をふやせばよいというような単純なことではない。その時間にパトロールなど安全強化を考えてもらいたいという意見が多かった。学校改築にあたって、できるだけ長い間学校を使っていたい。(基本設計のため1年間)壊されないままの学校を見ながらの通学はいかがなものかという意見があった。もうちょっと(改築が)具体的になってからでもいいのではないかとということである。
- 王子小では工事期間をできるだけ短くしてほしいという希望があった。工期が4年という話があったとき、自分の子どもは新校舎に入れるのかどうかという感想を持った保護者が多かったと思う。
- 桜田小は少人数で目をかけてもらっているというよいところもある。しかし、統合によって、友達が増えるのはよいが、クラス替えなどは全体で行われるのか。先生を増やしてもらえると聞いたがどれくらい増やしてもらえるのか。今の桜田小学校のよさを大きな学校となっても生かしてもらいたいといった意見があった。
- 桜田小では統合についての反対ではなく、統合したときにより方向に向かうために教育委員会とともに考えてもらえないかといった意見であった。
- 桜田中では、新しい学校と言っているわりには準備期間が短いのではないかと意見があった。文書等で教育委員会の意見として、中学校の統合時期について、平成17年4月の実施が望ましいというはっきりとした説明をPTA運営委員会で聞いたが、納得できない保護者もいた。また、現3年生の先生は残してもらえるのか、つまり進路に関して子どもたちをよく知っている先生を残してもらえるのか。また、部活も頑張っているが、今までレギュラーだったが、多くなると出場できなくなることもあるので、統合の年度くらいは統合校については、区大会レベルでは、2チームの出場はできないだろうかといった意見があった。
- 桜田小では小規模の中で子どもたちの気持ちが損なわれないなどよい面が、大規模になって人間関係がどうなるのか不安であるといった意見があった。
- 王子中PTA総会の出欠欄に学校統合に関する意見記入欄を設け、13名から記述があった。その意見を要約すると、学校統合に関する正しい、詳しい情報がほしい、学校統合の説明会は桜田中と一緒に開催してほしい、協議会の傍聴をしたいので、日時を教えてください、二学期制の導入に続き、統合と不安でいっぱいである、地域の子子どもたちが安全で安心して過ごせるよう準備してほしい、制服・校名は変えないでほしいなどの意見があった。統合時期は進路について、準備期間を思うと平成18年4月がよいといったことも聞いた。また、小学校にいる子どもをもっている保護者は同じ子どもが二度統合を経験するので、平成17年4月が望ましいという声も聞いている。PTAとしては、実施時期がどちらに

なっても、桜田中のPTAと協力して準備をしていくつもりである。平成17年4月の統合実施が適切であると教育委員会から示されたが、保護者にとって、最も適切というのが見えづらい。具体的な特徴を話してもらえるとよい。

- (事務局発言) これまで東十条小では説明会を開催していないが、後日説明会を開催したい。
- これまでの協議会で実施時期についての意見を整理したほうがよいと思い、事務局に資料を用意してもらったので、これから配布する。
- (事務局発言) (配布した資料について 朗読)
- 時期について、平成17年と18年の意見があるが、17年が無理というハードルは越えられないものなのか、クリアできるのか。
- 王子小と桜田小は統合して平成17年4月に桜田小に移動する。中学校も王子中が改築だから、桜田中に移動するが、王子中・桜田中と校舎は一緒に二つの学校が入れないのか。
- (事務局発言) 学校設置基準で学校はそれぞれに敷地と校舎をもつ、と決まっているので統合をしないのに、ふたつの学校がひとつの校舎を利用するのは不可能である。
- 桜田小の説明会のときに、王子小学校改築で基本設計に1年、実施設計に1年、建築に2年で合計4年かかると聞いた。その際、中学校の統合時期が平成18年となったとき、基本設計の1年間は地盤調査とかなので、対応できるかもしれないと依田部長から話があった。可能であれば、基本設計の1年の間、中学校に猶予を与えてもらえないか。
- (事務局発言) 基本設計に1年、実施設計1年、工事に2年。取り壊しには9から10ヶ月かかると考えているので、小学校が17年、中学校が18年となったとしても、工事のタイミングだけで考えれば、不可能ではない。
- 中学校としては進路の問題が大きい。統合準備の中で、忙しい中で子どもへの配慮をしていかななくてはいけない。また、17年となると入学時には統合について何も聞いていない保護者にとって、統合が目と鼻の先に来ってしまうというのは不安をどう取り除くのかという現実問題がある。また、6月10日の説明会で、改築期間が4年あることを聞いて安心した。この期間に教育内容についても両校の交流を通して、新しい学校づくりについて考えていく長い期間がある。仮に小学校と中学校の統合時期がずれたとしても工事は不可能ではないという説明もあった。
- 補助金の関係もあって、4年かかるのではないか。
- 17年度の基本設計では取り壊しできない。実施設計のときに取り壊すということになるのか。
- (事務局発言) 王子小学校の接道条件が悪いので、中学校のほうの大きな道から入って壊していくのが作業進行がスムーズに進められることだと思う。
- 基本設計のとき、取り壊すというのはいりえるのか。2年目の実施設計のとき取り壊すのか。
- (事務局発言) どの時期で取り壊すのかというのは、敷地の問題となる。ハード面の話で進んでいるが、その他の部分での話で早期実施が望ましいということである。設計に1年は長いかもしれないが、地域の意見を聞きながらという作業が入ってくるので、その期間

はみなくてはいけない。早い工事も可能だがいろいろな意見を入れていくには4年かかると考えている。

- 工事となると調査も必要となる。単独校として建て替えるときの期間と隣接する中学校と一緒に改築となると教育内容も異なるので違ってくる。
- (事務局発言) 先ほどの委員の発言に4年間で両校の交流というものがあつたが、小学校はひとつの統合校となつたうえで、新しい学校づくりに取り組む、中学校もそうした方向でよりよい学校づくりをめざしてもらいたい。
- 準備期間が短いのは不安である。桜田小から中学校へ進学するとき、王子中と桜田中と子どもたちの選択が分かれているので、わざわざ分かれているのに親と子どもは不安に感じている。きめ細かな対応ができるのは18年である。小学校のときはすぐ仲良くなる、地域や保護者のほうにしこりが残つたという話を聞いた。ハードなどははっきりと目に見えるからよいが、お互いの感情など目に見えないものは納得できるというのはむずかしい。18年であれば、お互いに大きな犠牲もなく、ある程度納得して統合できるのではないか。ただ、教育委員会から17年実施という説明があつたが、もつとはっきりとした理由があれば教えてほしい。ハードの面の問題もあるが、小学校の保護者も納得してもらえれば、基本設計の1年間について、可能性があれば中学校の統合は18年にしてほしい。
- 1年、ずらしたときでも工事は4年で終わるという保障はあるのか。
- 17年と18年を分けても工事の終わりは同じなのか。4年でできるのだからと考えているのか。中学校は1年遅れてスタートするとなると、工事も1年遅れてしまうのか。
- (事務局発言) 小学校が17年、中学校が18年に統合となつた場合でも、17年度から設計に入り、工事が進行していくのだとすれば、19年に着工できると考えられる。しかし、解体の時期など精査しなくてはいけない。
- 耐震の問題もあるので、1年延びることは大丈夫かどうか考えてほしい。
- (事務局発言) ハード面がクローズアップされているが、根本は中学校の適正規模が求められていることだ。適正規模等審議会での答申により、北区全域でこのように協議会を開催している。統合の早期実施をめざしたいというのは、統合による混乱やざわつきを短期的に収束させることで、波及も短期的に終わるということである。桜田小では、多くの保護者からの意見として統合を早めてもらいたいと理解をしている。教育委員会として、基本的な姿勢はあるが、協議会の意見を尊重していく。
- 王子中と桜田中の両方を考えて、18年といっている。子どもたちのことを考えて、今の子どもだけではなく、将来のことも考えていかななくてはいけない。耐震の話もあり、他の人の不安を押しつけてまで、桜田中の思いを言い続けるつもりはない。
- 事務局に対して、次回までに資料を出してほしい。小・中学校が17年に統合した場合、いつ学校はできあがるのか。また、中学校が18年に統合したとき、基本設計等早々に動き出したとき、出来上がりはいつなのか。埋蔵文化財の調査期間等を含めて、今の段階で想定してほしい。教育環境の問題として、在学している子どもたち、受験に支障があつてはならない。今まで知らない子と友達になるという不安を乗り越えるため、お互いにゆずりあう部分とゆずってはいけない部分がある。中学校の先生には持ち帰って学校で話し合つてほしいが、17年に統合すると進路指導上、マイナスがでるのか、先生方は進路指導の用意できるのかできないのか。

- (事務局発言) 承知した。
- 他の地区の協議会ではあまり進展していない。王子地区では話が進んでいる。17年実施ということで手を上げれば、かなり改築に関して優先順位が確保できると考えられる。18年といているが、18年が担保されていることではないと懸念している。区の財政状況を考えると懸念がある。
- (事務局発言) 工事の優先順位ということは、教育委員会が決めることではない。ただ、まとまっていないところを待っていることはできない。
- 区の財政状況はかなり逼迫していることを承知の上で議論してほしい。
- 賛成多数というわけにはいかない。全体会を開いて、方向性をだしたい。
- 協議会が7月にあるとすると、また決まらないでずるずるとなるともう間に合わなくなる。
- (事務局発言) 議論を整理すること、教育委員会は17年度実施が適切としているが保護者は納得していないという意見に対して、再度整理する。また、工事期間についても整理したものを委員の皆さんについては先にお示しをする。あわせて、全体会の前には連合会に説明をして、全体会に臨みたい。
- 王子中も桜田中も18年という思いを言い続けてきた。しかし、全体会で17年と決まったらそこからまた気持ちを切り替えなくてはいけない。期待を持たせるのは危険なことであり、不信感を持たせてしまう。
- 各校の思いはもう出されている。この10日間に教育委員会は適正規模と多様な教育という大義で17年という意見を表明してきた。しかし、この協議会では各校の思いをバランスよくやっていこうということで、その大義がでていなかった。もし、来年地震があつて、多数の死傷者がでたら、この協議会は何を大義にして話し合いをすすめていたのか。各校の思いを乗り越えるのはこの大義なのだと思う。
- 学校の説明会では17年が望ましいということは表明しているが、この協議会には17年が望ましいとは明確にでていない。
- 王子中の老朽化で、子どもの安全ということをお手上げである。校舎を考えると早急にしてほしい。17年という区の判断を聞いてから、統合に向けて、心だけではなく、実際に準備を始めていく。また、桜田中の思いも聞いてきた。お互いの思いをしっかりと受け止めた上で、区の判断に沿う以外にないと教職員に話をしている。
- 努力すればハードルを乗り越えられるのか。
- 教職員一丸となって、努力しなければならないと思っている。
- 学校現場を預かる者として、ハードルは高すぎるが、乗り越えなければいけない。投げ出すわけにはいかない。
- 第1が安全面であるならば、区が安全確保しなくてはいけない。子どもたちの精神面など不安感が大きく出ていると思っているので、教員を含め、ハードルが高いといていると思う。しかし、子どものことを考えるのであれば、先に延ばさないほうがいい。
- 協議会で18年と決めたら、教育委員会はどうか。
- (事務局発言) 報告は協議会の経過を全て載せてある。Q&Aは全て教育委員会の考えを載せてある。中学校の説明には、時期は17年度が適切という文書を出した。適正な規模を早期に確保し、ハード、ソフト、両面から享受できるようにすることが、この地域の活力になっていく。落ち着かない状況についても、短期的に収束させるため、教育委員会と

しては、17年4月が望ましいということの説明した。しかし、地域も保護者も押しなべて18年が望ましいという結論がでたならば、その結論を尊重して、再検討することになる。

- 王子中が老朽化によって安全ではないという意見があったが、保護者の思いというよりも、明確な理由が出たわけだから、それ以外の理由を述べる必要はない。
- 保護者が納得できる答えがあれば、もう前を向いていかなくてもいけない時期にきている。このように続けて議論を進めて、17年度と決まっても間に合わない。18年度にするためではなく、17年度に決まったという納得できる意見をもらいたい。桜田小の危機的状況と王子中の耐震が5年間もそのまま放置されていたなどこの王子地区では、教育委員会の方針が明確にされていれば、もっと建設的に議論がすすめられたと思う。
- 桜田小では、15年度当初、統合のことは考えていなかったが、その頃、桜田小は統合をするのかという話を聞いて、いろいろ調査を行い、16年度の入学予定者の把握をした際、極端に少なかった。ちょうどその頃、この協議会が発足して、これまで桜田小の現状を話してきた。学校が何も努力してしないと傍聴者からの意見があったが、努力の結果、4名の入学者があった。しかし、北区のなかで子どもの取り合いをしたくないと思っている。

第1回の協議会で王子中の老朽化という話があったが、まず考え方の順序としては、適正規模ということであり、それが子どもにとっての教育環境であるという話をした。

桜田中は適正規模を下回っていること、それが統合する第1の理由である。老朽化という子どもの安全もあるが、まずこの会が発足したのは適正規模ということだった。そのような環境に子どもを置いているということが問題であって、それこそが犠牲である。もし、地震があったとき、命を考えるとより安全な桜田中に移ること、そこで桜田中の適正規模が下回っているという話であった。統合が犠牲であると思っていないし、犠牲と考えれば校長として統合なんてできない。現状のままの環境にしていることこそが犠牲である。

- (事務局発言) この会議で結論を出してほしい。
- 幹事会では小学校、中学校ともに平成17年4月の統合をめざすということで方向付けとしたいがどうか。
- 中学校の校長へ聞きたいが、進路指導についての課題は何とかクリアできるのか。努力できそうであると理解してよいか。
- 都立高校の学区制もなくなり、教育内容も多様化しているなど、入試制度が昨年度大きく変わったことで統合に関わらず、教員も都立高校の現状を把握できているのか、生徒の進路を的確に指導できるのか。現場は混乱をしている。時間があればよいが、残念ながらない。ハードルは高いが、それを乗り越えるもの、たとえば安全ということもある。何を優先していくのか。つらい思いをするがわかりあいながら、努力していくしかない。
- 幹事会として、反対がなかったということで方向付けをしたいがどうか。
- 反対というよりもそうせざるを得なかったということである。
- 17年、18年の選択となったが、17年の選択が多く賛同があったということ。安全という話がでたが、それが大義となった。
- これまでも各校の保護者の思いなど話があったが、諸手をあげて17年に賛同しているわけではない。王子中の施設の安全ということだけで、17年と決まったということは説明できるのか。いろいろな諸条件のなかで、17年4月になったことはやむをえないことであり、



18年にしてもらえたらありがたいということは重ねていっているところである。その思いを受け止めたうえで、17年4月統合実施の方向を説明していかなくてはいけない。

- 全体会を開く前に、これまでの経緯と結論をまとめ、事前に委員へ配布して、確認後、全体会へ配布したい。それでも意は尽くせないと思うが、全体会での了承を得て、協議会だよりを発行するという段取りを踏んでいくしかない。

## 王子地区教育環境整備協議会(第3回)

■平成16年7月2日

■北とびあ第一研修室

■次第■

1. あいさつ
2. 幹事会の検討経過について
3. その他

■発言要旨■

- (事務局発言) (第2回全体会以降の幹事会での検討経過について報告) 望ましい学校配置について、小学校は、王子小と東十条小の位置、中学校は、王子中の位置とする。適正配置の実施時期は、平成17年4月とすることをこの幹事会でまとめた。
- 桜田中PTAでは、保護者のアンケートを集めるなど、これまでさまざま取り組んできたが、統合の話を何も知らずに入学してきた今の2年生や3年生のことを考えると平成17年4月の実施はすっきりと納得しかねるところもある。いままでの教育委員会の説明が不十分なので、これからはいろいろな機会に保護者が納得できる説明を求めることとあわせて、これからの展望がはっきりすれば、新しい学校づくりに向けて、頑張っていけるので、次の4点を確認したい。まず、第一に、学校という広範な人が関係する問題なので、今、どのような話がされているのか、早く、広く、正しく伝えてほしい。第二に、小中の通学区域が広がるので、安全面を十分考えていかなくてはいけないことと学習面、メンタル面など手薄にならないように十分な人の手当てをお願いしたい。第三に、桜田中が仮校舎となる予定だが、今の子どもやこれから入学してくる子どもたちのことを考えて、建物や設備の手当てを望む。また、この協議会は地域全体でさまざまな教育環境を考えていく場であるので、新しい学校づくりについて話し合っていきたい。第四に、統合の時期や場所など決定されていないのに、いかにも決定したかのように、うわさが流れている。今の小・中学生や地域の方々、また、これから小学校に入学する保護者にとっても、本当に良かったといえるような学校づくりとしていくため、正しい情報を伝えるようにしてほしい。

- (事務局発言) 地域への情報提供については、さらに努力をしていくこととあわせて、未就学児をもつ保護者へも情報提供していきたい。次に、通学路の安全確保や校舎設備などについての人の手当てなど検討課題である。この地域全体として新しい学校づくりについて検討をお願いしたい。
- それぞれ思い入れがあると思うが、何事にもタイミングがある。プラスに考えてほしい。仲間が増えるなど良い面もある。
- ささまざまな意見はあるが、適正配置は子どものことを考えたら、資料の確認事項のとおりで良いと思う。
- 東十条小は統合の枠から外れているが、この協議会は地域全体の教育環境整備なのだから、落ちこぼれることのないようにしたい。東十条小の子どもも新しい中学校に入学するのだから、スムーズに入れるように、また、東十条小もかなり老朽化しているので配慮願いたい。また、これからの検討は、新しい学校像に進んでいかななくてはならない。
- 幹事会のこれまでのまとめについて、了承してもらえるか。
- (了承)
- (事務局発言) 王子地区の望ましい学校の位置は、王子小学校・東十条小学校・王子中学校とする。適正配置実施時期について、平成17年4月とすることを全体会で了承を得たので、協議会だよりを発行し、周知を図りたい。児童生徒を通じて、保護者への配布、町会自治会による回覧とあわせて、年長児対象として幼稚園・保育園へ配布する。
- 協議会だよりを作成するにあたって、統合時期が決まったということだけではなく、具体的に学校の動きについても触れてほしい。
- (事務局発言) 安心してもらえるような紙面づくりを考えていく。
- 望ましい学校の位置と実施時期について、大筋の結果が出たが、子どものために苦しい選択の中の結論と思ってほしい。むしろこれからの大事であるので、協議会として努力していきたい。

## 王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第8回)

■平成16年7月22日

■北とぴあ901会議室

■次第■

1. あいさつ
2. 第3回全体会のまとめ
3. これからの進め方について
4. 望ましい学校像について

5. 傍聴者からの意見
6. その他

#### ■発言要旨■

- (事務局発言)第3回全体会のまとめについて報告。あわせて、意見を踏まえ、協議会だよりを未就学児をもつ保護者や育ち愛ほっと館へも配布した。次にこの地域として新しい学校について、どのような学校を望むのかということを検討して、基本構想としたい。その基本構想は、基本設計に反映させる一番の基盤となるものと考えている。
- 「経営改革プラン」の答申案の中で、北区の小・中学校や保育園などは、高度経済成長期以降に建築され、特に23区でも率先して鉄筋コンクリートの校舎としてきた学校施設の95%が、築後31年以上経っている。あわせて、学校改築について、1校あたり30億円要する改築経費の調達に関しては、これまでの転用ということだけではなく、施設跡地などの売却処分も有効な手段であるという内容があった。ここで確認したいのだが、新しい学校建築後、桜田小・中学校は遊休施設となるが、地域の人が希望を持てるような施設となるのか、それとも資金調達のものとなるのか。
- (事務局発言)新しい学校の建築には60億円かかることになるので、売却を念頭に入れざるを得ない。
- そのような動きがあることを含んでいてほしい。次に新しい学校について、基本構想としてまとめていかななくてはいけない。
- 望ましい学校像について、統合中学校の理念と概要という資料がある。そのなかでは、(1)新しい校舎は、まちの発展につながる (2)地域の中にあつてこそその学校 (3)可能な限り数多くの「手垢」をつけること がよりよい学校づくりにつながっていくといっている。目先の流行に追われたくないが、今の指導法など検証されたものは生かしていきたい。異校種の連携教育について、複合校舎となると、6歳から15歳までを対象とするので、小学校と中学校とでは、階段や水飲み場の高さなど違うことがある。生かせるものは生かしながらも50年間、まちの中軸となり、愛されるハードであってほしい。
- 次代を担う子どもたちにふさわしい教育環境をつくりたい。今の新しい教育内容に適したもの、かつ不易な部分も果たせる学校がよい。今の王子小・中学校の位置という立地条件を生かせる学校づくりにしたい。小学校と中学校の生活面、学習面は違うので、連携型の建設で建物はそれぞれとしたほうがよい。また、地域コミュニティの拠点となっているので、その役割を果たせるような学校づくりとしたいし、あわせて東十条小の意見も十分聞きながら、話し合いを進めていきたい。
- 不易と流行があるので、先を見通した施設でなければならない。
- 新しい学校について、特に地域センター校としての役割ははずせないと思う。子どもが使っていないときは、地域の人が使えらるような施設としたい。また、仮校舎という言葉が資料にあるが、仮校舎というイメージがあるので、桜田校舎として環境を整備してほしい。また、北区新聞に知らない人が読めば誤解する記事が掲載された。

- (事務局発言) 北区新聞について、新しい学校を王子小・王子中とすると掲載された。結論の部分に王子小・王子中の「位置」が抜けていた。新聞記事でも必ずしも正確なものではないことがあるので、冷静に対応してほしい。
- これから基本構想をつくる協議会と統合推進委員会との兼ね合いをききたい。
- (事務局発言) 統合推進委員会について、名称は決まっていないが、校名や校歌などソフトに関する話を話し合う仮称ソフト部会を小学校と中学校とそれぞれ設置し、ハードについては一緒に話し合っていく仮称ハード部会を設置する。協議会で話し合う基本構想と足並みをそろえて、具体的なものとして基本計画を取りまとめることになる。第1回目の推進委員会を26日に予定しており、状況については、協議会で報告する。
- 推進委員会の構成を知りたい。
- (事務局発言) 各校保護者が8名、校長、教頭をあわせて10名である。学校によっては、保護者が7名のところもある。
- ハード部会には東十条小も何らかの形で入ってほうがよい。
- (事務局発言) 東十条小の人も入ってもらうことは検討したい。
- 池田小学校の事件以来、学校は非常に閉鎖的にならざるを得なかったが開かれた学校と安全についてどうなるのか。可能であれば、設計などの専門家にハード部会に入ってもらいと現実的な話ができる。
- (事務局発言) 教育委員会内部では、技術職員が入る予定である。また、専門家については検討中である。
- 垣根をはずすことはこの東京では難しいのではないか。
- 学校に入る人は名前を書いている。限界があるが、はっきりとした身分の人には開いていくといったようにさまざま方法を考える必要がある。
- 学校は防災拠点なので、閉じられてしまうのは困る。
- 学校を地域の人にも使ってほしいという思いとセキュリティの兼ね合いが難しい。
- 今までの体制だと無理なので、人的配置がなければいけない。シルバー人材の活用を含めて考えていくべき。
- セキュリティについては課題だと思う。
- 資料のなかの基本構想で、「教科センター方式を運営方式の基本とする」とあるが、どうか。
- (事務局発言) 教科センター方式などについては教育委員会の考え方を明らかにしていく。
- 基本構想と基本計画が同時進行していくことになるが、理念のなかに地域のニーズを取り入れるためにもこの協議会での話をききたい。
- セキュリティが一番関心のあるところだと思うが、落ち着いて勉強ができ、すてきな居場所となるような学校としてほしい。また学童クラブのことを心配している保護者が多いので、専用の場所を確保してほしいし、桜田学級やことばきこえの学級などすべての子どもが安心して通えるようなものにしてほしい。
- 桜田校舎の4年間についてはあわせて議論をしていくが、桜田学級やことばきこえの学級についてこの協議会で話し合うのか。

- (事務局発言) ことばきこえの学級は桜田校舎でスタートしていく。また、改築に伴う桜田学級の扱いについては、特別支援教育という考え方のなかでどこに桜田学級があるのが望ましいのかという全区的な検討を所管課で行っている。
- (1)補正予算を検討しているのか。(2)役所の窓口は一本化となっているのか。(3)改築期間は4年とっているが、この基本構想はいつまで決定すればよいのか。今後の時間の流れを教えてください。
- (事務局発言) (1)統合に係る経費について、補正予算計上の準備をしている。(2)基本的な窓口は教育改革担当となるが、必要に応じて所管課が説明することもある。(3)基本構想については、今年度末までにまとめていきたい。
- 今年度に基本構想ができれば、4年を3年に短縮できるのか。中央図書館がなくなると、地区図書館がなくなるが、複合施設として図書館を入れるとどうなるのかなどというような情報も考えてほしい。
- (事務局発言) 工事期間については、4年を短縮することは難しい。また、図書館数は、北区は23区中でもトップクラスであることもあり、今のところ複合化は検討していないけれども明確に答えられるようにしておく。あわせて、今回の校長先生の意見をまとめたもの書き加えられるようにした記入シートを作成するので事前に提出をお願いしたい。
- 工事期間について、どこまで短縮できるのか。
- (事務局発言) 工事期間の短縮の要望にはできるだけ配慮するが、予算の関係や区議会での議決を要するため、難しい点は多々ある。

## 王子地区教育環境整備協議会(第4回)

■平成16年10月1日

■北とぴあ第二研修室

■次第■

1. あいさつ
2. 経過報告
3. 統合推進委員会報告
4. 望ましい学校像について
5. 傍聴者からの意見
6. その他

## ■ 発言要旨 ■

- (事務局発言) 経過報告に入る前に、本日は学校改築並びに施設改善を担当している庶務課長が出席しているのでごあいさつさせていただきたい。
- 庶務課長 庶務課では、改築等担当している。学校改築に関して、この協議会においても話し合われているところであるが、区議会第3回定例会の委員会において、王子桜田の統合に合わせて、学校改築を行う旨の公表が企画部長からあった。補正予算を計上しているところであるが、新しい学校づくり部会や協議会の方々のご意見を伺いながら、よりよい学校を作っていきたい。
- (事務局発言) 第3回全体会で、望ましい学校配置と実施時期を確定した。また、第8回幹事会を開催し、これからの進め方について、関係校で構成する統合推進委員会の設置をすることとなり、7月から部会を開催していただいたところである。
- それでは、統合推進委員会の各部会より報告をお願いします。
- 小学校シンボル部会について報告する。これまでに3回開催した。この部会では、小学校の校名・校歌・校章・標準服について話し合いを進めている。指定用品については学校で決めてもらうこととなった。次に、桜田校舎の施設改善についての検討内容は資料のとおりである。また、校名については、王子小と桜田小のそれぞれで校名を検討し、各校での検討結果を次回の部会で報告することとなっている。標準服についても各校それぞれでの検討を踏まえ、部会において検討を重ねていくこととなっている。
- 中学校シンボル部会について報告をする。8月から3回部会を開催した。標準服については、両校PTA作成のアンケートを実施。今日の部会において、二つの標準服のモデルを選定し、保護者や子どもたちに見てもらって、選定していく。校名については、両校PTA作成のアンケートの集計結果をもとに、再度アンケートを行い、複数の候補を決定していく。桜田校舎の改修について、この資料のとおり、区へ改善要望書を提出した。閉校式について、各校で、協力して進めていく。
- 新しい学校づくり部会について報告する。8月から3回開催した。第1回目は、教育内容が施設に影響するであろうということで橋本校長と私とで作った私案をもとに大いに新しい学校づくりに向けて夢を話し合い、共通理解を図ったところである。また、第3回から東十条小が参加することとなった。これまでの確認事項は、校舎の基本的な形は、小・中学校の独立性を保ちながら、接続型の建物。その中に、共有部分があるとよい。また、東十条小のことも忘れてはいけないということも確認されたところである。また、学校施設の視察も行っていくこととなった。
- 統合推進委員会について、質問等あるか。なければ、望ましい学校像について話を進めたい。
- (事務局発言) お手元に配布したアンケートは、ご意見を参考にしながら、設計に結びつける基本構想、基本計画の策定のためのアンケートである。特に大切にしたい項目を3つ、選んでほしい。そして裏面に選んだ理由や自由意見を記入。10月15日までに庶務課施設係で取りまとめ、報告する。
- このアンケートの配布対象は。
- (事務局発言) この協議会のメンバーと部会のメンバーである。

- 保護者も対象にしたらよいのではないか。
- (事務局発言) かつて学校施設のあり方検討会で保護者対象に行っている。この地域の意見を集約したい。
- 3つを選ぶというのは難しい。5つ以上になってしまう。3つよりはもう少し幅を広げてほしい。
- (事務局発言) あり方検討会の報告書では、すでに全区的集計がでている。この地域の意向があるのかどうか確認したい。もし、3つが無理であれば優先順位をつけてほしい。
- 町会長には余計に渡して地域の意見を集約すべき。
- (事務局発言) そのようにする。
- 学校で教職員の意見集約してもよいか。
- (事務局発言) それでもよい。
- 地域の方や保護者の方とそれぞれ思いが違うが集計はどうするのか。
- (事務局発言) アンケートでは、町会・自治会、保護者、学校関係者と区分をしているので、区分ごとの傾向を出したい。
- 新しい学校づくり部会には専門家も入るのか。
- (事務局発言) 専門家に入ってもらう予定である。
- 資料の桜田校舎の施設改善要望について説明してほしい。
- 小学校シンボル部会については、3ページの要望書は教職員の話し合いのうえ、まとめたものである。また、2ページの要望書は王子小の保護者の要望が強いものをまとめたものである。
- 新しい学校づくり部会においては、学校改築の検討を行っているが、王子地区の教育環境という点から、東十条小の体育館改修などの要望が出されている。
- 5ページの要望書は桜田中学校校舎と理解してよいのか。また、来年の3月までに間に合うのか。
- (事務局発言) やれるもの、やれないものの精査が必要である。また、3月までに終わるもの、そうでないものと分けざるを得ない。工事の手順、工事の優先順位等について、役所で判断することになる。
- 工事の手順といっても、多くの子どもが一緒になるのだから、どうなるのか。
- 王子小では、歯磨きが習慣となっていることもあり、桜田校舎の水洗の数が少ないので、早めに検討してほしい。
- (事務局発言) そのことは十分承知しているので、十分相談しながら進めていきたい。
- ことばきこえの教室を桜田校舎に作るため、防音設備とか大掛かりな工事となることを心配している。
- 庶務課長 工事経費は予算計上している。なるべく授業の支障とならないように考えている。
- 東十条小の校舎老朽について、王子地区の話題に加えてほしい。
- (事務局発言) 協議会のまとめとして要望を盛り込んでいくのかどうか。ただ、桜田校舎施設改善要望とは違うことである。
- この協議会の中で決議して要望として入れてほしい。
- 校歌・校章は新学期でもよいのか。

- (事務局発言) 校名は決まっていけないが、校歌や校章は校長が定めるものなので、その時点でなくてはならないものではない。実際、校歌が5年から10年ない学校もある。
- 小学校の移転について、桜田の位置にことばきこえの防音設備を作る。また、移設して王子の位置に作るとなると、二重にお金がかかることになる。どこかに固定できないのか。また、「統合推進委員会だより」を配ってもらったが、町会の人にはどうなっているのか。
- (事務局発言) 区として、今までの教育機能はそのまま、という考え方で、学童クラブや育ちあいほっと館も含む。ことばきこえ教室だけが行ったり来たりするのではなく、桜田学級についても同じことである。必要としている子どもがあれば、それに手当てをすることが教育行政の努めである。また、協議会で統合推進委員会の報告をお願いし、協議会だよりの中で、統合推進委員会の進捗状況を伝えていく。
- 現在の桜田学級についてはどうなるのか。
- (事務局発言) 桜田中の教育機能であるので、統合新校で一緒になる。
- ことばきこえの教室の防音設備費用は3千数百万。代替できないのかという声もある。
- (事務局発言) 位置的な問題もある。ことばきこえの性格上、防音設備が必要。4年間のためのお金であるが障害に対応した手当てということで、新しい学校に、より充実したものとするための経過措置としてご理解いただきたい。
- このアンケートをふまえて、望ましい学校づくりにつなげていきたい。予算的なものはどうなっているのか。
- (事務局発言) 学校改築に関する予算は新年度なのでこれからである。
- 王子地区として、改めてアンケートをとりたいたいといったが、新しい学校づくりについて検討している部会には町会・自治会の方は入っていない。
- (事務局発言) 当初、この協議会で承認を得て進めてきたが、そのような意見があれば再検討していただければよい。
- 必要とあれば地域の人も入ってもらおうほうがよい。
- 桜田学級が学校にあまりにも近い。一緒のメリットもあるが、デメリットもある。新しい学校に、もし、そのような不登校に関する施設を作るのであれば、十分配慮してほしい。
- (事務局発言) 不登校については、大きな課題として取り組んでいく。入り口や配置など十分検討したい。
- 郷土資料館が空いているので、ことばきこえ教室として、使ったらいいと思う。
- 最初から役所のほうで物事が決まっていて、そのとおりに動いているように感じる。もっと柔軟に考えていくことが必要である。
- 傍聴者の意見を記載してあるので、お目通しを願いたい。その他の議題についていかがか。
- (事務局発言) 本日の協議会を踏まえて、協議会だよりを発行する。部会の進捗状況を記載する。また、東十条小に関する施設整備要望の意見があったことは記載していく。
- これからの進め方について、幹事会を開いていくのか、部会で進めていくのか。
- (事務局発言) アンケートの集約結果をもとに、幹事会で基本構想のベースを作って、全体会で報告するという形としていきたい。



- 部会では地域の意見が反映しにくい。地域の意見が反映されず、進んでしまうことを懸念している。全体会や幹事会には町会のメンバーが入っているので、できればこの協議会で話を進めていくことを要望する。
- 閉会する。

## 王子地区教育環境整備協議会・幹事会(第9回)

■平成16年11月4日

■北とびあ第一研修室

■次第■

1. あいさつ
2. 統合推進委員会報告
  1. 新しい学校づくり部会
  2. 小学校シンボル部会
  3. 中学校シンボル部会
3. その他

■発言要旨■

- 来年度の統合に向け、各部会とも色々なご審議を頂いていると思う。その中で色々な問題や、現在までの審議の結果について報告頂き、次回の全体会で承認を得たい。より良い統合を目指してご意見を頂きたい。

(新しい学校づくり部会 報告)

- 東十条小学校の整備の問題についてはどう考えるか。
- (事務局発言) これから今年度末に向けて、この協議会でまとめをする中で、東十条小学校単独の要望なのか、地域全体の教育環境整備の一環としてまとめるのかの整理をお願いしたい。
- 学校から上がる要望をバックアップすると思えばいいのでは。置いてきぼりではないということを確認して頂きたい。
- 王子地区教育環境整備協議会の中で、東十条のことも心に入れて頂きたい。
- 設備の改善ということをお願いしていくことになるかと考える。
- 桜田校舎の改善は進んでいるのか。
- 小・中学校シンボル部会の中で、どこにどう手を入れるかを考えている。その結果として具体的な案が固まるどころ。

- (学校施設アンケート 報告)

(小学校シンボル部会 報告)

- 校名案について、2案が候補として部会から協議会に審議して欲しいということか。
- 保護者同士で話し合ったが、この2案から、地域の皆さんの意見を伺いたい。
- (校名案の選定理由説明)
- 協議会にぜひ一本化をお願いしたいということであるが。
- 一番難しい問題だ。
- この問題をいつまでも引き延ばす訳にはいかない。幹事会の後、全体会にも諮るが、方向付けをしたい。
- 幹事の中ではまとまっていないと、何のための幹事会なのか分からなくなる。
- 部会の皆さんは大変だったと思う。「王子さくら」は悪くはないが、卒業生ということを超えて、王子というのは歴史的な重みとともに、北区では赤羽・滝野川とともに地域の名前であり、北区の中心でもある。王子第一から第五までの4校があるが、最初に出来たのが王子であり、後から出来たから第一、第二・・・とした。出来ることなら、地域の間人として「王子」として頂きたい。
- 東十条としても全く同感。「王子」が「王子さくら」となると、地域の歴史ある学校の名前が変わると抵抗があるかと思う。「王子」小学校として再スタートをして欲しい。
- 基本的には現役の皆さんがどう考えるかということと、教育委員会のそもそもの考えがあるかと思う。この場が校名について考えるところかというものもある。事務局の見解を伺いたい。
- (事務局発言) 小学校シンボル部会でご協議頂き、2案が選定された。幹事会で方向付けがなされ、全体会でこの地域としての方向付けがなされることが望ましい。その結果を最大限尊重し、教育委員会としての立場で改めて検討させて頂く。出来れば方向付けをお願いしたい。統合ルールの原則として校名は新しい名前だが、両校の関係者による合意があればとあり、この2案が選択されたので、この2案から選ぶことが理にかなっていると考え。
- この2案から選べればいい。
- この幹事会で何も方向性が見いださないと、全体会に諮れば混乱する。部会の意向を尊重して、さらに絞りこむという方向付けをしてはどうか。また全体会で方向性を承認し、教育委員会、議会で審議となる。この場は地域の意向を教育委員会に示す場だと考える。
- 中学校シンボル部会では、当事者が両校の思いを語り合った。そこで地域の方の思いを伺う、それが幹事会なり協議会であると思う。地域の方の意見を加えて、あくまで2案のまま、教育委員会にもって行って教育委員会に決めて欲しいと思う。なぜなら、今までの統合は教育委員会で決めてきたが、今回から教育環境整備協議会として、その中で学校代表として進めている。それぞれの学校の思いを背負ってきているので、ここが決定の場になってしまえば、私たちも責任を負わなければならない。それがとても重い。昨年校長が平成18年統合をお願いしたいと訴えてきたが、地域のことを考え、平成17年となった。そうした桜田の保護者の思いも背負っている。校名に関しては、幹事会・全体会とも地域の

考えを伺う場、2案について教育委員会に責任を持って頂きたい、この場ではあくまでも私たちが構成メンバーなので、方向づけられたものに責任をとらなければならない。

- それは私たちも同じ。教育委員会は責任を持って、この場の雰囲気を含んで判断するというので任せてしまうということで良いなら、座長は楽だ。
- 決めなければいけないのかと非常に悩んだ。多数決は無理だし、とりたくない。幹事会としては、地域の方の中ではこういうふうに出ましたと全体会に振って、教育委員会に任せるとか、全体会にこちらが多かったと振るとか。
- 小学校シンボル部会の経過として、部会の中では一本化に向けて努力したが、2案ということになった。統合校において子どもたちが地域の方に見守られて育っていく中で、また、子どもたちは交流を始めている中で、来年4月に向けて進むなかで、保護者として子どもたちが仲良く新しい学校に通えるような環境にしたいという気持ち大きい。お互いの思いがある中でどちらかに決められないので、地域の皆さんのご意見に預けて、決めて頂ければとあげている。決まったことについては意見に従うと小学校PTAでは決めた。意見を伺って、何らかのものを決めて頂ければと結論を出している。
- まち全体に意見を聞くのは不可能。これを決めるのは大変なことだが、決めなければならない。やはりこの幹事会でこういうふうに一本にまとまりましたと全体会に諮らないと、全体会でも繰り返すだろう。
- みんなでこの場で決めるのだから、この10数名で決めるのであって、地域だけで決めるのでは決していない。
- 小学校シンボル部会として、その雰囲気を伝えたい。「王子さくら」と「王子」が対立してまとまらなくてというものではない。煮詰まって対立関係になってということではなくて、保護者として背負っているものが重い、桜田としてはそういうものになったときに重たいものを背負わなければならない、だから小学校シンボル部会の中で1つに絞らないで、違うところに預けましょうと、敵対関係ではないのだからそれは地域を含めたものだと思うという気持ち。対立して仕方なく預けたというものではない。どこかで保護者の背負ったものを軽くして頂きたい、その思いが地域の方というものにある。それを保護者にいつまでも背負わせるのは酷なことではないか。皆さんの英知の中で判断して頂きたい。
- 子どもたちのためにということを念頭に置きながら、保護者同士で遺恨が残っては困ると思っていたが、2案ということはそういうことかと胸をなで下ろした。
- 部会では一定の形でまとまってきて、最終的に地域の学校であるので、皆さんと一番良いものをと考えている。ある程度の方向性だけでも見えると良い。
- 今まで地域が入っていないので、ここで地域を加えて決めていきたいということか。ここで小学校と中学校と切り離して考えては。
- 中学校のことで頭がいっぱいだが、中学校シンボル部会としては、あえて「王子」「桜田」を抜かした中で、2回目のアンケートを採った。中学校シンボル部会として我々の意見として出し、あげた。そこまでの過程で保護者の熱い議論があり、ここまで来ている、そういうことをご理解頂きたい。ただ、結論・方向性は出していった方が良いでしょうと思う。
- 私は現役のPTAの一人だが、地域の者でもある。「王子」以外のものは考えにくいところがある、この王子地区では「王子」小以外を選んだとき、ギクシャクしたものが残ると思う。

一度小学校シンボル部会を傍聴したが、問題は数や歴史、長さ、勝ち負けではないが、吸収されてしまうというイメージでとらえられる点。ここからは心遣いではないか。

- 話の中では2校の案が出てきたととらえている。後の問題は両校のPTAでの話し合いがもっと必要となるだろう。方向付けをどうするか。
- 一本化はしないということか。
- 言葉の言い方としては。
- これからの子どもたちがギクシャクしたとしたら、楽しくなくなるだろうし、幹事会としての意見を全体会にあげなければいけないと思うが。
- 様々な思いはあるが、どうするのが次善の策かを懸命に探った。再スタートという言葉が出たが、両校の校歴を引き継いで欲しい。「新生」王子小という気持ちでやって頂けると、ケアになるのではないか。
- 地元で話をしたが、「新生」ということで結構でしょうと。歴史は歴史であって、校名は残っても歴史は閉じると考えている。それを皆さん素直に受け入れてくれた。我々は「新生」と受け止めている。
- 小学校の方は、この場での方向付けを望んでいる。この会に委ねられているので、どういふ答を出すか、整理をした方がいい。この場にいる10数名は一蓮托生であって、反対はあっても、その方向にということはやむを得ない。ここでは決めない、全体会でも決めない、教育委員会に委ねる、それで良いのか。
- 小学校に関しては、小学校シンボル部会の方で方向付けを望むということだから、私は構わないと思う。
- では議論を整理しよう。
- 小学校について、色々なご意見があったが、今までの意見から、「王子」の方が多かったと思うが、どうか。あとは表現をどうして全体会に報告するのだが。
- 方向付けできるのであればいいと思っている。13日の周年行事にゆかりのある方たちが多く見えるが、来春の統合について話題になるだろう。今までの話の流れで、「王子」が最終決定ではないがそういう方向ということか、2案のままになっているということかによって、様々な思いが出るだろう。先ほどから出ているが、子どもたちの教育をつなぐのであって、いかに円滑に統合するかということで、一緒に学習したり交流したりと色々取り組んでいる。現実的に桜田校舎を使うので、王子小の子が桜田小に行って、春に花が咲く球根を王子小の子と桜田小の子と一緒に植えている。地域の方々の色々な声でギクシャクするようなことを薄く、短くしたい。両校の校長の間では、統合ルールに示されている「全てを新しくする」のではなくて、両校の卒業生の母校であるようにしたい、校歴もうまくあわせたい。卒業証書の番号も両校の卒業生たす1から始めたい。お互いの母校だと示したいと話している。そういったことを通して、名前が消えたとか、思ったものと違ったとか様々なことについてケアしていきたいし、しなければいけないと思っている。
- 「小学校の校名については、小学校シンボル部会の意向を踏まえ、協議会は2つの案について議論をしたが、王子小学校が望ましいという方向を確認した」ということではどうか。
- (異論なし)

- そういうことで、次の全体会に臨みたい。

(中学校シンボル部会 報告)

- 小学校との違いをお話すると、アンケートを2回採った。1回目のたくさんの候補名から、部会の中で、新校ということで「王子」「桜田」の2つはあえて除いた。4つの中からアンケートを採り、その中から「王子桜」「北斗」の2案をあげた。
- アンケートの対象は誰か。
- 保護者だが、生徒と相談して欲しいとした。
- (校名案の選定理由説明)
- 中学の場合には、一定の方向付けをなさなくていいということか、出した方が良くということか。
- 区では、議会の議決が3月になってしまうということだったので、ある程度の方向性は出した方がいいかと思う。区に決めて頂いた方が良くと言って頂き、ありがたいことだが、ある程度の方向性を出して選定して頂いた方がいいのではないか。
- 今回は幹事会であり、全体会もあるので、その中で小学校に似たような形で中学校シンボル部会としては、最終的には2案の中でどちらかになろうかと思うが、方向付けをした方がいいのか、あるいは2案の提案があったと振るのが良いのか。
- 事実として、アンケートの票数はどうか。
- (事務局発言) 王子中において「王子桜」84票、「北斗」60票、桜田中において「王子桜」12票、「北斗」46票。
- 補足として、桜田中としては昨年から統合を我が身として考えてきて、1回目は「王子桜」が一番多かったが、2回目では「北斗」が新校であって欲しい、名前も新しくあって欲しいということで集まった。王子中としては王子という名前を残して欲しいという気持ちが多く、新校であるから「王子」「桜田」をなくしましょうと2回目のアンケートを採ったので、「王子桜」に思いが集まった。部会では4つにも絞り込まないで欲しいという意見も両校から出た。アンケートを見れば、桜田は「北斗」が多い、王子は「王子桜」が多い、それぞれ思いが込められていて絞れない。中学校シンボル部会として4つを持っていくのはアンケートを採った意味がないから絞ったが、ただ、中学校シンボル部会を経てどれだけの思いを持ってこられたか、足りない部分もあると思うが、王子中には、あえて「王子」の名前をはずして頂いたことに感謝したい。本来ならもっと大きな声が出るかと思ったが、全く新校としてあげて頂いたことには感謝したい。中学校シンボル部会のメンバーが背負ってもってきたものがこの協議会の場で方向づけされることは、不安はあるが、3月まで決まらないのであれば、校歌・校章も決まらないし、先ほど一蓮托生と言って頂いたので、どちらに方向付けされても、キチンと桜田の思いは伝えて、方向付けされたということは説明出来れば良いと考えている。
- この場だけでなく、全体会で方向付けが確認され、教育委員会に行くということもあるし、いずれにせよ、どれかひとつにしなければならないということはみんなが分かる。先ほどあったように校名のことで両校の保護者・関係者が対立することが子どもたちにも影響することは不幸なことだと思う。本当に両部会の方は苦労したと思う。ましてOBの方の思い

を考えると、非常に苦しい選択をしたと思う。感謝と敬意を表したい。部会としての責任で2案に絞ったことを了承して欲しい。全体会に向けてどうするか。

- 「北斗」となると王子も桜も消える。
- 本当に新校ということになる。
- 何か問題にならなければいいが。
- 幹事会である程度の方向付けをしないと、何のための会議かということになる。やはり方向付けをして、全体会に諮って、教育委員会に持っていかないと、今日の会議の意味がないのでは。ぜひ議論をしていきたい。
- 出来て50何年、私は確か4期か5期。2期は確か27クラスあった。私の時で17クラスあった。赤羽・足立からも、初代の浦牛原校長先生を慕って来ていた。それだけの卒業生がずらっと多く住んでいる。東十条、豊島、王子・・・昨日、その方たちと会ったときに、なぜ王子が残らなかったといわれたが、最終案としてこの2案が残ったと言ってボコボコにされたが、最終的には致し方ないと思う。相当ご苦労があって大変だと思うが、これからまた「新生」新制中学になる訳で、どちらかと言えば「王子桜」に決めて頂ければ、王子も入り桜も入り、話がある程度通るかと思う。
- 私的な感想として、「王子桜」は地名を折り込んでいるが、「北斗」はシンボル。代表は北斗七星かと思うが、北海道には北斗はいっぱいあり、札幌にも私立北斗高校がある。北区立としても、北区は全国にある、大阪にも、神戸にも、札幌にもある。北斗は北半球どこでも使える。南半球では南十字星だろうが、オーストラリアだけではなく、ニュージーランドなど様々なところで使える。北斗も同じで、「北とぴあ」は固有名詞だが、北斗では不特定、地域性ではどこの、となる。北区立をつけてもそれは避けられない。どちらが良いという前に、参考として。
- 教育委員会では校名の基準はあるのか。
- (事務局発言) 特にはないが、他との識別が出来にくい名称は避けることになるだろう。
- 「王子」「桜田」をなくしての役員の方々のお骨折りは大変だったと思う。そういう点から、王子、桜の両方の残った名前が決まった方が安心すると思う。皆さんが良いのではとなるなら、「王子桜」としてはどうか。
- 正直アンケートの結果は「王子桜」が多いと思っていたが、「桜王子」もあったのか。「北斗」はどこの学校という気はする。基本的には現役の皆さんの意見に従う。
- (事務局発言) 「桜王子」は王子中が7票、桜田中が16票。「北王」は王子中が50票、桜田中が8票。
- 先ほどから聞いていて、両校でここまで来るのには大変な時間をかけてきたのだと思う。たまたま今日は就学時検診だったが、70過ぎの先生が、本郷小がなくなって、本郷中がなくなって、拠るところがなくなった、中学卒業同士の絆は強くて、時々集まるが、何もなくなって寂しいという話をされた。「王子桜」であればふるさとという感じはするのかなと思うが、軽々には申しあげられない。
- 王子中を残さなかったことに感謝をしているという発言は大事なこと。その思いがもしPTAの皆さんに通じれば、「王子桜」の方が受け入れられやすいと思う。許容範囲がどちらかという、王子の名前が残る、桜田ではないが、桜田という思いは書いていない、花の桜

とは書いてあるが、誰もが桜田の桜と思うだろう。私も「王子桜」のほうが馴染みやすいと思う。

- 皆さんの意見をお伺いしたうえで、「中学校の校名については、中学校シンボル部会の意向を踏まえ、王子桜中学校が望ましいという方向を確認した」ということではどうか。
- (異論なし)
- これで全体会に臨みたい。
- おおむねの方向が決まったので、傍聴の皆さんにも聞こえるように言いたいが、桜田の会長さんは大変に重い荷物を背負っていると感じる。これはきれい事で慰めても、事実である。だからこの協議会全体で決めたのだと認識して欲しい。改めて確認したい。傍聴の方々にも、途中の議論を充分一般の皆さんに伝えて頂きたい。結論だけ聞くと、安直にシヤンシャンでいったようになりがちだが、充分つらい選択をしたと、会長からではなくて傍聴の方々からむしろ伝えて欲しい。
- 十条倉庫の交通整理の件を説明して欲しい。
- 情報提供として、桜田小学校からあった。北本通りから、十条製紙のトラックが入ってきて、桜田学級の交差点で右折して、桜田小学校の前で角の門に入る。大きなトラックなので多少ふくらんで曲がる。登校児童が増えることによる安全確保のために、4月以降人を配置することを考えている、と会社から連絡があった。
- あの4丁目の角は信号が短い。それは警察が絡まないとやりくり出来ない。警察を巻き込んでやらないと。
- 王子警察署の交通課に相談し、警視庁に連絡して、児童が増えるのだからということで時間を長くすることは可能。同じような事例がちょうどサミット前の信号であった。
- 小学生だけではなくて、中学生も増える。
- 通学路の安全、桜田校舎の改修などまだまだ詰めることはあると思う。各部会でも意見を出して欲しい。子どもたちが安全に快適に通えるような環境をつくっていききたい。
- 校名決定の手順の確認をしたい。設置者は北区なので、決定は北区。全体会に臨むときに望ましいという方向で出すが、決定機関ではないことを確認したい。校名については本当に苦しい選択をした。第1回のアンケートで王子中が4分の1あった。それを削除するのに苦しんだ、当事者は会長だが、そういったことがあったので、2案にあげたこと経緯には苦渋の選択があったということと、お互いに相手を思いやることでシンボル部会が苦しみなながらも検討を続けてきて、2案に絞ったことを分かって欲しい。思いは王子も桜田も同じ。そういったことを理解して頂いて、続けて欲しい。
- 一番の討論の山場が両校の校名をはずした事。それを思えば、どちらをとっても最終的には納得してもらえる下地は出来ている、充分説明は出来ると考える。
- (事務局発言) 本日一定の方向性を確認頂いたということで、全体会を開催する。全体会でご了解頂いた後、それを最大限尊重した形で教育委員会として審議させて頂く。その審議を踏まえて、議会への条例案上程となるが、最終的な確定は3月末になる。今月末の教育委員会で審議したい。
- 協議会だよりは出るのか。
- (事務局発言) 全体会終了後、11月中旬に発行をしたい。
- 次回、全体会を開催する。

## 王子地区教育環境整備協議会(第5回)

■平成16年11月10日

■健康増進センター研修室

■次第■

1. あいさつ
2. 経過報告
3. 統合推進委員会報告
  1. 新しい学校づくり部会
  2. 小学校シンボル部会
  3. 中学校シンボル部会
4. その他

■発言要旨■

- 開会する。本日、座長は事情により欠席なので、副座長が代行する。
- (事務局発言) 第9回幹事会経過報告。各部会の報告があった。まず、新しい学校づくり部会では、東十条小の施設改善について、協議会としての要望としてほしいという話があった。次の小学校シンボル部会では、校名について2案に候補を絞ったという報告があり、その校名について幹事会としてひとつの方向を見出すべきかどうかという議論があった。この2案のまま全体会に諮ってもよいのではないかという意見もあったが、やはり幹事会としてひとつの方向を見出すべきであるということになった。そこで、さまざまな議論を重ね、「王子小」が望ましいということを確認した。続いて、中学校シンボル部会からも報告を受け、これもやはりひとつの方向を見出すということになり、アンケートなどを踏まえ検討されたが、「王子桜中」が望ましいということが確認されたところである。あわせて、資料12ページの下から9行目の校長先生の名前を間違えて記載しているので、本日、正誤表を配付した。申し訳ないが、訂正してほしい。校名以外では、十条製紙の倉庫会社が4月からの桜田校舎の児童生徒の増加により、登下校時に人の配置を検討中であることが報告され、近くの信号機の待ち時間等の問題があるので、王子警察署と相談をしていくべきであるといったことも報告された。
- 学校づくり部会の経過報告。第4回部会では、文教施設協会の方から学校建築に係る基本構想や基本計画の検討事項等の説明があり、あわせて、これまでの部会の討議内容を盛り込んだ基本構想の文案を示してもらい、それに対して、意見を言っていきたいという方向となった。また、新校舎に王子小・中学校、桜田小・中学校のどのようなシンボルを盛り込むかを検討していくことが必要である、ということを受けて、各学校のシンボルとなっているものについて出し合うことになっている。



- 小学校シンボル部会では、校名と標準服について話し合いを進めてきた。両校から校名候補を出し合おうということで、王子小からは、「王子小」、桜田小からは、「王子さくら小」「北斗小」「あすか小」という候補を出し合い、部会においてさまざまな議論を重ね、「王子小」と「王子さくら小」の2案の候補を選定した。しかし、最終的にひとつに絞り込まず、部会として、協議会での議論をお願いした。標準服について、桜田小は現在標準服を採用していないこともあり、両校の思いはあるが議論を重ねた上で、採用することとなった。ただ、桜田小ではこれまで標準服を採用していないので、配慮を求めるということをシンボル部会の要望とした。
- 中学校シンボル部会では、校名について、2回アンケートを行った。1回目のアンケートで、王子中、桜田中という答えもあったが、あえてそれらはずして、「王子桜中」「北斗中」「北王中」「桜王子中」の4つの候補を挙げ、2回目のアンケートを行った。その結果を踏まえ検討を加え、「王子桜中」と「北斗中」の2案を、校名候補として幹事会に報告した。標準服については、両校のアンケートを行い、ひとつのモデルを選定したところである。
- 小・中学校のいずれも2案が候補となっている。シンボル部会では、大変ご苦勞をいただいてここまで絞り込んでくれたが、さらに校名をひとつに絞ることをシンボル部会で決めるのは、荷が重く、協議会に委ねるということになった。2案をそのまま教育委員会に委ねてはどうかという意見もあったが、協議会として、一定の方向を決めていこうということになった。小学校の校名については、小学校シンボル部会の意向を踏まえ、幹事会は2つの案について検討のうえ、王子小学校が望ましいという方向を確認した。中学校の校名については、中学校シンボル部会の意向を踏まえ、幹事会では2つの案について検討のうえ、王子桜中学校が望ましいという方向を確認した。これが、幹事会の方向である。このことについて、全体会においてご了承をいただき、教育委員会へ報告したい。
- 議事要旨を読んで、幹事会において十分議論されていることがわかった。ここで、次のことを確認したい。ひとつは、部会の検討を進める際に、統合ルールに基づいて検討することが前提であり、校名を新しくするということが原則だった。しかし、どのような合意をもってすると旧校名が使用できるのかという明確なものが示されていない。また、決定機関として協議会が機能し、この全体会での承認が決定となるのか。さらに、新生「王子小」という具体的な選定理由を付してほしいと部会でもお願いしたが、ここで明確にしてほしい。
- (事務局発言) 統合ルールは要綱で決まっている。学校統合はすべて対等な統合であるので、校名、校歌、校章は新しくすることが原則だが、関係者間の合意が得られている場合においてはその限りではなく、むしろそれを尊重するというものである。協議会での承認はまさに合意であるとしてとらえており、校名選定の最終確認となる。
- 部会において十分議論を重ねてきた結果を踏まえ、協議会の方向付けとしてひとつに絞り、この全体会で決定したものを教育委員会に付託して、議会により議決となる。
- 名前は変わらないのに、何をもって統合新校なのか。
- 「王子小」という校名は、両校の思いが込められたという理由が付されているけれども、結局旧名を使う。今の選定理由だけではなく、しかるべき理由付けをプラスしてほしい。
- 保護者の中では、吸収されたという不安がある。両校が仲良くやっていくためのはっきりとした理由がないと歴史とか知名度とかというと納得できない。

- 何をもって、というと、小学校シンボル部会では、まだ最終判断は出していないが、新しい校章・校歌は今年度に決めるのではなく、新しい王子小に委ねるということもある。
- (事務局発言) 幹事会においては、「王子小」と「王子さくら小」のそれぞれの選定理由を比較し、検討した中で絞り込んだと受け止めている。資料の16ページの王子小の選定理由にあるように、地域への愛着、両校の保護者や子どもたちが寄り合い、心をひとつにしてほしいというのが、シンボル部会でまとめた、最も大きい理由であると思っている。また、10ページにあるように、地域の中でも校名は残っても、「新生」と受け止めているといった意見もあった。選定理由の中で、歴史的観点から錯誤があるという指摘をいただいたので、訂正したい。「平安時代に」という記述は、「中世のころに」と、また、王子村、王子町、王子区についての時代認識も訂正したい。
- 幹事会での方向だが、この全体会での変更はありうるのか。王子という名は北区の代表的なものであることがよくわかっているが、桜田小の保護者としては王子小に吸収されるのではないかという不安がある。王子さくら小でも王子の名は残る。桜田校舎の使用にあたって、小学校の校門に王子小、中学校の校門に王子桜中という表札があると子どもたちや地域感情を考えると微妙である。
- (事務局発言) シンボル部会の意向をふまえ、幹事会で地域の意見を十分勘案して出された方向である。また、両校の歴史を引き継ぐということから、卒業番号を王子小と桜田小の合計をした次からの付番とすることなどの案もでていいる。校名は王子小だが、校歌・校章は統合校において、改めて考えてもらうということでもある。シンボル部会の中で「新生」について、議論を重ねてほしい。シンボル部会としては判断を協議会に委ねたということであり、それを受けた幹事会での方向付けを変更するということは、これまで積み上げてきた議論を台無しにすることとなると思う。
- 幹事会の方向付けをご理解いただきたいというのが、基本的な姿勢であるので、シンボル部会に差し戻すことをしたくない。
- これまでの統合で、もめている原因というのは何かというと、納得して、スタートしていないことであると聞いている。やはり納得して、スタートをしたいということから、もう少し時間をかけても良いのではないか。
- まず、部会をスタートするとき子どもたちのことを考えて、保護者同士もよりよい統合に向け、シンボル部会でもさまざま検討した。こだわりをもってはいけないういながらも、まとまらなかった経緯がある。幹事会で方向を出したことで、吸収されるイメージをどのようにするのか。選定理由にもう少し「新生」ということを強調してほしい。選定理由の見直しをお願いしたい。
- (事務局発言) 今までの議論の積み重ねのうえに立った選定である。納得できる時間がほしいとのことだが、両校の保護者にとって、折り合いがつくところまでシンボル部会で十分議論を重ねてきたと思う。しかし、事務局としても、選定理由に新たなイメージを付加する努力をし、シンボル部会に示していきたい。
- 校名について、一定の結論を出していかななくてはいけない期限であるという判断で方向付けをして提案をしている。新生ということについて、明快に理由を出せないでいるが、選定理由について、事務局で考えたものをシンボル部会に示し、広く保護者に伝えていくということでご了解いただきたい。

- 中学校の校名については、両校の保護者で時間をかけて決めてきたことである。今まで、築き上げてきた私たちの思いを大切にしてほしい。確かに校名のことは大切なことではあるが、子どもたちが楽しい学校生活を送れることが一番大切である。ひとりひとりを大切に、十分な人的配置をお願いしたい。現在の2年生の保護者は受験を控え、不安に思っている。桜田校舎改善の回答を教育委員会からもらったが、3倍くらいに人が増えるのだから、4年間を過ごす子どもたちの生活についても配慮してほしい。
- (事務局発言) 皆さんの意見を聞きながら、改築に向け、動き出している。ハードだけでなく、教育内容についても最大限努力していきたい。桜田校舎についても、できる限り工夫していきたい。
- 桜田小の保護者の気持ちも良く理解できるし、感情的な面もよくわかる。しかし、子どもたちの感情はどうなのか。新しい学校が始まるという希望を子どもたちにもたせることが大人の努めである。両校の校長もよりよい統合に向け、宿泊学習や交流事業などを行っている。大人の気持ちのモチようであり、子どもたちに夢をもたせることが大人の責任であると思う。
- 選定理由の文言について納得してもらえるように努力していきたい。もうひとつ、東十条小について、王子地区全体の教育環境の向上と教育施設の格差緩和という観点から、施設整備についての配慮を求めることをこの地区の最終報告に記載するということを了承願いたい。校名について、幹事会でもはじめから諸手を挙げて賛成となったわけではない。シンボル部会での意向を踏まえ、幹事会でもさまざま議論があった。中学校については、統合ルールに則り、新しい校名を候補としており、協議会に報告があったときには、すでに王子中も桜田中も候補になかった。小学校については、統合ルールの付則を解釈し、「王子小」を候補のひとつとする報告があった。このように小と中では校名候補の選定の方法の相違があり、さまざま協議会での議論を重ね、最終的に王子小、王子桜中という方向付けとなった。以上、3つのことを了承願いたい。
- (事務局発言) 協議会だよりを今月中に出す予定である。

## 王子地区教育環境整備協議会(第6回)

■平成17年3月8日

■北とぴあ第一研修室

■次第■

1. あいさつ
2. 経過報告
3. 統合推進委員会報告

1. 新しい学校づくり部会
2. 小学校シンボル部会
3. 中学校シンボル部会
4. 協議会報告(案)について
5. その他

## ■発言要旨■

- 新しい学校づくり部会の報告 本日、机上配布された「北区立統合新小・中学校改築基本構想・基本計画(案)報告書」がこれまで8回開催した部会での検討内容をまとめたものである。新築する学校は、小学校はオープン型のスペースを有し、中学校はホームルーム型でセンターも一部設けているものを骨格としている。環境やバリアフリーなどを生かして、これからのモデルとなるような校舎をつくってほしいという願いから話し合いを進めてきた。今後、基本設計・実施設計の段階となったときの課題もあるけれども、基本的な理念として案文をまとめてきた。地域の意見をいただいて、最終的に策定することになる。
- 小学校シンボル部会報告 標準服について話し合い、デザインを決定した。また、桜田校舎の施設改善について、5ページの資料に示してあるとおり、改修を行っているところである。
- 中学校シンボル部会報告 標準服も含め、話し合いは順調に進んでいる。校歌について、小野ゆかりさんに制作を依頼した。先日両校合同でライブを聞いたところである。校章については資料に示してあるとおりのデザインで決定した。桜田校舎の施設改善については、5ページの資料のとおり。
- 先ほど報告のあった学校改築基本構想の案文の中に、アンケート結果として「地域社会の防災拠点、避難所等の役割を考えた学校」という要望が掲載されているけれども、桜田校舎の改修一覧には、「中学校の防災備蓄室を普通教室に改修」とある。それでは、この備蓄倉庫はどこにいったのか。また、10ページの「地域施設との複合化」についての要望がないと書いてあるが、王子には区民センターがない。都の技術専門校がなくなると聞いているので、学校改築とあわせて、そこに区民センターをという地域の要望があるが、どうなのか。
- 報告書の6ページ、10ページともアンケート結果に触れているものである。24ページの施設構想計画の中にあるように学校は、コミュニティの拠点としての施設整備として、また、地域の防災拠点、避難所としての役割を担う施設として、災害時の対応に配慮した施設整備をすすめるとして、基本の考え方をおさえている。また、統合校に関しては敷地面積が狭隘となることから、複合化は考えていないということを教育委員会より示されていたことから、複合化についてはあえて部会では議論を進めていない。
- 桜田中の備蓄倉庫はパソコン準備室に移動しただけでなくなったわけではない。
- (事務局発言) この案文については、保護者を中心としてとりまとめたものであるが、地域の意見を踏まえて最終策定を行いたいので、15日までに事務局まで意見を寄せてほしい。それでは、次に、王子地区教育環境整備協議会の報告案について説明。協議会方針として(1)王子中学校と桜田中学校を平成17年4月に統合し、統合校は現王子中学校

の位置に配置する。(2)王子小学校と桜田小学校を平成17年4月に統合し、統合校は現王子小学校の位置に配置する。(3)統合中学校の校名は「王子桜中学校」とし、統合小学校の校名は「王子小学校」とする。次にここには記載していないが、(4)として、「東十条小学校の教育環境に配慮し、施設改善に努める」ということを加えていただきたい。この案文についてこの全体会で了承をいただければ、案をはずして議会へ報告したい。

- (座長) この案文を了承することでよいか。
- (了承)
- (座長) それでは、この案文を協議会報告とする。
- とても有意義な会であった。これまでも学校や保護者、教育委員会などの力を借りてきたところだが、これからもいろいろな人の力を借りていかなければならないと思った。というのは、新校は、生徒数もクラス数も増えてスタートすることもあり、先日、来年の卒業を祝う会の会場を変更しなければならなくなり、北とびあの飛鳥ホールの予約をしたのだが、非常に大変であった。教育委員会で優先的な予約など、配慮願えないだろうか。
- (事務局発言) 卒業式のような学校行事ということではなく、いわゆる謝恩会のような私的なものに対して教育委員会が優先的な配慮はできないけれども、要望として受け止める。
- だから、区民センターがほしいと要望している。王子には北とびあがあるから区民センターが要らないといわれているけれども、都立技術専門校が空くのだからそこを利用すべきだ。また、東十条や堀船の区民センターでも図書館がある。中央図書館が移転することで近くに図書館がなくなることもあるのだから、そのようなことも十分考えてほしい。
- 報告書の児童・生徒の推計値だが、統合新校は児童が増えていくのに、東十条小の児童は減少していく。この根拠があれば教えてほしい。
- 都の推計値である。50戸以上の集合住宅については情報として都に提出してあるが、それ以下のものは反映されていない。また、過去5年間の学校の推移と周辺区域の過去10年間の変動とを加味し、バイアスをかけてだしているものであるので、根拠について明確にお答えできない。
- (1)統合新校の児童・生徒数及びクラス数について (2)文教委員会の状況について (3)来年度の設計や解体などの予定及び設計などについて地域の意見を反映させられる場があるのか (4)技術専門校用地取得についてどうなっているのか教えてほしい。
- (事務局発言) 大まかな数字だが、小学校は80人を超えており、1年生だけ3クラス、あとは2クラスずつである。中学校は、1年生は121人、各学年4クラスである。いずれも今現在の数字である。次に文教委員会での状況だが、王子地区に関する質疑はなかった。次に、来年度は基本設計に入ることになるが、ワークショップなどを開催して意見をもらうことになる。しかし、設計の決定方法に関してはプロポーザルとなるのか、今のところ未定である。また、技術専門校の用地取得について、教育委員会としても入手できるものならば入手したいところだが、東京都は今のところ売却を含め、回答できないとしている。
- ワークショップを行うとき、地域住民もメンバーとなるのか。
- (事務局発言) ワークショップのメンバーについては今のところ未定であるが、保護者と地域と双方の意見をふまえるものとしたいと考えている。また、校舎の解体時期について

は、未定であるけれども、あまり長い間、そのままということは考えられない。しかし、7月の選挙会場ともなることから、そのようなことも加味しながら決めていくことになる。

- 桜田校舎への通学路について、子どもたちの安全確保はどのように考えているのか。小学校の前の十条製紙から登下校時に交通整理の人員の配置の件について、以前十条製紙が検討していると聞いているが、その後どうなっているのか。
- 桜田小では、十条製紙側から、門に一人配置することを検討している段階であると聞いている。
- 教育委員会としても十条製紙に対して申し入れていくべきである。
- 桜田校舎の4年後の跡地利用について教えてほしい。
- (事務局発言) 跡地の利活用については、跡地検討委員会で検討いただくことになる。しかしながら、跡地は、区の貴重な財産であるので、売却を含めた利活用ということも十分視野に入れていかななくてはならないということもある。ただ、跡地利用について地域の要望や意見を聞かずに跡地の方針を示すことはない。
- (副座長) 現在閉校している4校についての検討委員会が組織されたときのメンバーだったので、補足したい。その4校については売却を含めた検討とはいかなかったが、今後そのような跡地となったときに数校まとめてなのか、個々になるのかはわからないけれども、跡地利活用検討委員会が組織され、検討となると思う。
- (座長) 協議会はこれをもって、閉会とする。1年半にわたりさまざまな議論を重ねる中で、非常に苦しい選択や重い決断をお願いしたと思っている。しかしながら、それぞれの立場を超えて、お互いを思いやり、「子どもたちのために」という言葉を合言葉に、これまで熱心にご検討くださった委員の方々、ご協力くださった学校関係者や町会自治会の皆様には、心より感謝申し上げます。
- (副座長) それでは、最後の王子地区教育環境整備協議会の閉会にあたり、ご挨拶を申し上げます。去る3月5日、桜田小学校のありがとう桜田小学校、そして、王子中学校の閉校記念式典お別れの会に出席した。それぞれの会とも盛会であったが、この統合は時期尚早だと言った現役校長がいた。その校長たちは本当に現状を理解しているのか。このような結論を出すために、当該校の校長、PTA会長及び役員の方々がどれほど悩み、苦しみ、その中から譲り合ってきたことを皆さんにはぜひとも理解を賜りたい。あわせて、桜田校舎の整備についてはできる限りの努力と子どもたちの安全確保についての配慮を教育委員会へ要望したい。また、統合校の小・中連携教育は充実していくことと思うが、中学校から入学する東十条小の児童についても特段の配慮と東十条小の施設整備改善に向けた配慮もぜひともお願いをしたい。今後の王子地区の教育環境が素晴らしいものとなることを大いに期待して、各委員のご尽力、ご協力に感謝して、閉会のあいさつとしたい。
- (事務局発言) それぞれの方が悩みぬき、それぞれの立場を思いやりながらの議論が進んだことにより、このような方向を導き出すことができたと思っている。教育委員会として今後もこの地区の望ましい教育環境を考慮しながら、素晴らしい学校をつくっていきたい。また、それぞれの学校が統合に向けて一丸となっているところであるが、より一層皆様の力を借りていかななくてはいけないので、ぜひともご協力を賜りたい。1年半にわたりさまざまな議論を重ねていただいたこと、心より感謝申し上げます。